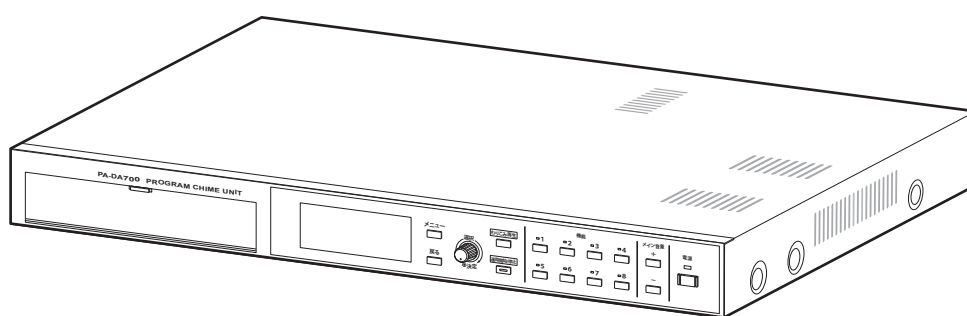


プログラムチャイムユニット

型名 **PA-DA700**

取扱説明書
(設置編)



お買い上げありがとうございます。

ご使用前にこの「取扱説明書（設置編）」をよくお読み
のうえ、正しくお使いください。

特に「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき安全にお
使いください。

お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管し、必要
なときにお読みください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際に
は本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造
番号と保証書に記載されている製造番号が一致している
かお確かめください。

はじめに

特長

年間 / 週間スケジュール対応

週間スケジュールを基本に、特別な日に対応した年間スケジュールの設定が可能です。

1 パターンあたり最大 999 ステップ、最大 99 パターンのスケジュール設定

多くのステップ（スケジュールの実行単位）に対応しているため、細かなスケジュール設定が可能です。

BGM とチャイム / アナウンスのミキシング再生が可能

BGM を再生したまま、チャイムやアナウンスをミックスして再生出力することができます。ミックスして出力する場合、BGM の音量調節を自動で行います。

高音質の音源ファイル再生が可能

48kHz 16bit の WAV 音源を採用することで、高音質のチャイムや BGM の再生ができます。また、複数の音源ファイルをまとめてプレイリストとして再生できます。

長時間録音

SD カードを使用することで、1 ファイル最大 3 時間の音声ファイルが録音可能です。録音した音声は、追加音源ファイルとして本機で再生できます。

豊富な内蔵音源

プリセット音源としてチャイム 54 種、アナウンス 19 種のファイルを内蔵しています。また、SD カードを使用することで最大 999 ファイルまで追加音源ファイルを登録することができます。

制御入力端子を 16 端子装備

- センサーなど、制御機器からの制御入力を 16 端子装備しています。
- スケジュールの変更や停止、音源ファイルの再生などの動作を設定できます。
- 本機をさらに追加（拡張ユニット）することにより、最大 48 まで制御入力を使用可能です。

制御出力端子を 8 端子装備

- 制御出力を 8 端子装備していることで、多くの機器を制御することができます。
- 本機をさらに追加（拡張ユニット）することにより、最大 24 までの機器を制御可能です。

ミキシング出力可能な外部入力端子を装備

CD プレーヤーなどの外部音声機器を接続し、本機の再生音とミックスして出力できます。また、フェードイン / アウト時間、ミキシングレベルを設定可能です。

2 元独立再生に対応

2 つの出力から別々のファイルを独立して再生する 2 元放送に対応しています。本機 1 台で 2 台分の再生が可能です。

ワンタッチ操作が可能な機能ボタンを 8 個装備

本機前面に機能ボタンを 8 個装備しています。スケジュールの変更や臨時のメッセージの再生などをワンタッチで実行できます。

わりこみ再生ボタンを装備

わりこみ再生ボタンでは、スケジュールを変更せずその場で音源ファイルを選択、再生できます。

パソコンを使ってスケジュール設定が可能

ホームページからダウンロードできる PA-DA700 設定ソフトウェア PA-ZS700DA を使って、パソコン（以後、PC と呼びます）で下記のようなことができます。

- 本機の各種設定やスケジュールの設定と制御ができます。
- PC 内の音声ファイルを本機で再生できるように変換し、追加音源ファイルとして登録できます。

非常用電源（DC24V）に対応

非常業務予備電源ユニットから電源（DC24V）を供給して、停電時にも本機を動作させることができます。

取扱説明書の構成

本機の取扱説明書は、次の構成になっています。

名称	内容	形式
取扱説明書（設置編）	本書 本機の設置・接続と初期設定について説明しています。	冊子
取扱説明書（操作・設定編）	本機の通常の操作と設定について説明しています。	冊子
取扱説明書（設定ソフト）	PC を使用しての本機の設定方法と、操作方法について説明しています。	PDF

もくじ

はじめに

特長.....	2
正しくお使いいただくためのご注意.....	7
各部の名称とはたらき.....	8
前面.....	8
背面.....	9
基本操作.....	10
設置・設定の流れ.....	12

設置・接続

本機を設置する.....	13
本機を据え置きで使用する.....	13
本機をラックに取り付ける.....	13
本機に外部機器を接続する.....	14
システム構成例.....	14
アンプを接続する.....	15
外部音声機器を接続する.....	16
時刻補正機器を接続する.....	16
外部機器から本機を制御する.....	17
本機で外部機器を制御する.....	18
ネットワークに接続する.....	18
電源に接続する.....	19
SDカード/USBメモリーを入れる.....	20
SDカード/USBメモリーを挿入する.....	20
SDカード/USBメモリーを取り外す.....	20
接続した外部機器の動作を確認する.....	21
制御出力の動作を確認する.....	21
音源を再生する.....	21

初期設定

ネットワークの設定をする.....	23
MACアドレスの確認をする.....	23
リモート操作の設定をする.....	24
時刻を合わせる.....	24
手動で時刻を合わせる.....	24
ネットワークで時刻を補正する.....	24
親時計で時刻を補正する.....	25
時計校正機能を持つ外部機器で時刻を補正する.....	25
画面の表示を設定する.....	26
起動時の状態を設定する.....	27
制御入出力の設定をする.....	27
起動優先モードを設定する.....	27
アンプなど外部機器の電源の設定をする.....	28
制御入出力を拡張する.....	29
本機を拡張ユニットとして使用する.....	29
本機に拡張ユニットを接続する.....	29
音声入出力の設定をする.....	30
音声入力の設定をする.....	30
音声出力の設定をする.....	31
バックアップについて.....	32
自動バックアップの設定をする.....	32
手動でバックアップをする.....	32
バックアップから復元する.....	32
内蔵電池のバックアップについて.....	32
消耗部品について.....	32

付録

仕様.....	33
---------	----

この取扱説明書の見かた

■ 本文中の記号の見かた

- ご注意 : 操作上の注意が書かれています。
- メモ : 機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。
- P. : 参考ページや参照項目を示しています。

■ 本書記載内容について

- 本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部、または全部を弊社に無断で転載、複製などを行うことは禁じられています。
- 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では™、®、©などのマークは省略してあります。
- 本書に記載されたデザイン、仕様、その他の内容については、改善のため予告なく変更することがあります。
- 本書で使われている画面は、実際のものとは異なる場合があります。

安全上のご注意

ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られる所に大切に保管してください。

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示(文字含む)を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています



注意

この表示(文字含む)を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、または物的損害の発生が想定される内容を示しています

■ 絵表示の説明

注意(警告を含む)が必要なことを示す記号



一般的注意



感電注意



手をはさまれないよう注意

してはいけない行為(禁止行為)を示す記号



禁止



ぬれ手禁止



接触禁止



分解禁止



水ぬれ禁止

必ずしてほしい行為(強制・指示行為)を示す記号



電源プラグを抜く



一般的指示



警告

異常が発生したとき

万一、次のような異常が発生したときは、そのまま使用しない

火災や感電の原因となります。

- ・ 煙が出ている、へんなにおいがするなどの異常のとき。
- ・ 画面が映らない、音が出ないなどの故障のとき。
- ・ 内部に水や物が入ってしまったとき。
- ・ 落としたり、キャビネットが破損したりしたとき。
- ・ 電源コードが傷んだとき。(芯線の露出、断線など)

このようなときは、すぐに電源を切り、電源プラグを抜いてください。

煙が出ているときは、止まったのを確かめてから販売店に修理を依頼してください。お客様ご自身が修理することは危険です。絶対にやめてください。



設置について

機器を重ねて使用しない

お互いの熱の影響で誤動作したり故障したりして、火災の原因となることがあります。



機器の通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと、機器内部の温度が上昇し、火災、故障、やけどなどの原因となることがあります。



異常時に電源をすぐ切るように、本機をコンセントの近くに設置する
また、電源プラグが容易に抜き差しできる空間を設ける

電源を切っただけでは、本機は電源から完全に遮断されません。

完全に遮断するには、電源プラグを抜いてください。

機器はコンセントに容易に手が届く位置に設置し、異常が起きた場合すぐに電源プラグを抜いてください。



設置/接続/組み込み作業は販売店などに依頼する

設置/接続/組み込み作業は、専門的な知識や技術が必要になります。販売店または専門業者にご依頼ください。正しく設置/接続/組み込みされないと、落下によるけがや事故、感電や火災の原因になります。



電源や電源コードについて

電源コードを束ねて使用しない

束ねて使用すると、火災の原因となります。



表示された電源電圧 (AC100V / DC24V) 以外で使用しない
火災や感電の原因となります。



雷が鳴り出したら、ケーブル類/電源コード/電源プラグに触れない
感電の原因となります。



電源コードを傷つけない
電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 電源コードを加工しない。
- 無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない。
- 電源コードの上に機器本体や重いものをのせない。
- 電源コードを熱器具に近づけない。



電源プラグやコンセントにほこりや金属が付着したまま使用しない
ショートや発熱により、火災や感電の原因となります。半年に一度はプラグを抜いて乾いた布でふいてください。



付属の電源コードを使用する。
また、付属の電源コードは本機以外では使用できない。

本機には、必ず付属の電源コードを使用してください。付属の電源コード以外を使用すると、火災や感電の原因となります。また、本機に付属している電源コードは、他の機器で使用できません。



取り扱いについて

機器の上や周辺に水の入ったもの (ペットボトル、花瓶、コップ、化粧品、薬品など) を置かない
機器の内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。



内部に物を入れない

すき間や通風孔などから、金属類や燃えやすい物などを入れたり、端子間を金属類でショートさせたりしないでください。火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいる場所では注意してください。



本機を分解したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部品があり、火災や感電の原因となります。内部の点検、修理、電池の交換は販売店に依頼してください。



注意

設置について

不安定な場所に置かない

ぐらついている台の上や傾いた所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがをする原因となります。



本機の上に重いものを置かない

重いものや本体からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



次のような場所に設置しない

誤動作や故障の原因となります。

- 許容動作温度 (0℃ ~ 40℃) 範囲外の暑い所や寒い所
- 許容動作湿度 (30% RH ~ 80% RH) 範囲外の湿気の多い所 (結露のおそれがある場所)
- 湿気や砂・ほこり・粉じんの多い所
- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たる所
- 火気、熱器具の近くなど
- 直射日光が当たって温度が上がる所
- 可燃性、引火性、揮発性ガスなどがある所
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所
- 強い振動のある所
- 放射線やX線、および塩害や腐食性ガスの発生する所
- 変圧器やモーターなど強い磁気が発生する所
- トランシーバーや携帯電話など電波が発生する機器の近く



本機を縦置きで設置しない

縦置きにすると、転倒によるけがの原因や、内部に熱がこもることにより火災の原因となることがあります。



ラックに設置する場合、ラックの取扱説明書もよくお読みください。

けがの原因となります。



取扱説明書に従って設置・接続する

各機器の取扱説明書をよく読み、取扱説明書に従って設置・接続してください。取扱説明書に従わない場合、故障や感電、けがの原因となることがあります。



注意

電源や電源コードについて

電源プラグはコードの部分を持って抜かない
電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災・感電の原因となることがあります。プラグの部分を持って抜いてください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。



移動するときは、電源プラグや接続コード類をはずす

接続したまま移動すると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しない
発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。



電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着したりして火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。



専用 AC アダプターを使う

指定以外のものを使用すると火災や感電の原因になることがあります。また、本機の AC アダプターを他の機器に使用しないでください。火災や感電の原因となることがあります。



すべての機器の接続が終わってから電源プラグをコンセントに挿す

感電や故障の原因となることがあります。



取り扱いについて

本機の上に乗らない

倒れたり、壊れたりしてけがの原因となることがあります。



お手入れについて

2年～3年に一度は内部の点検を販売店に依頼する

熱、湿気、ほこりなどの影響や使用の度合いによる部品劣化で、火災の原因となることがあります。

特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。



お手入れするときは電源プラグを抜く
感電の原因となることがあります。



正しくお使いいただくための ご注意

- USB 端子に USB メモリー以外の機器を接続すると、故障の原因となることがあります。
- 各機器を接続する場合は、指定しているコード・ケーブルで接続してください。
指定以外のコード・ケーブルを使用したりコード・ケーブルを延長したりすると、誤動作の原因となることがあります。
- 取扱説明書に記載されていることに従って設置する
取扱説明書に従わない不完全な取り付けにより発生した事故や損害については、当社は責任を負いかねますので、設置には十分な注意をお願いします。
- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜く
安全および節電のため、電源プラグを抜いてください。
- 本機は、屋内専用です。屋外での使用はできません。
- 電源を切ってから電源プラグを抜いて、次のようにお手入れしてください。
 - ・ 汚れは乾いた柔らかい布などでふき取ってください。
 - ・ ひどい汚れは、水で薄めた中性洗剤に布を浸して固く絞ってから汚れをふき、乾いた布で水分をふき取ってください。
 ベンジンやシンナー、塩素系洗剤は使用しないでください。キャビネットの損傷や故障の原因になります。
- シンナーやベンジン、塩素系洗剤、殺虫剤など揮発性の薬剤をかけたり、またゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください
キャビネットの塗装が変質したり、はがれるなどの原因となります。
- 本機は、時刻サーバー (SNTP サーバーや NTP サーバーなど) を使用して自動的に時刻合わせを行なう機能を搭載しています。より正確な時刻で運用するために、時刻サーバーのご使用をおすすめします。
- SD カードへ録音中に電源が切れると、それまでの録音音声は再生できなくなります。

電波障害について

この装置は、クラス A 機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

免責事項について

- ・ 万一、PA-DA700 およびコンピュータソフトウェアなどの不具合により、正常に動作しなかった場合の補償についてはご容赦ください。

SD カードについて

- ・ SD カードは消耗品です。
大切なデータは別のメディアにバックアップされることをおすすめします。
 - ・ SD カードによっては、本機で正しく録音や再生ができないことがあります。
また、SD カードに使用されるメモリの種類によってデータの保持期間が異なります。
動作確認済みの SD カードを使用することをお勧めします。
動作確認済みの SD カードについては、販売店にお問い合わせください。
 - ・ 本機には、SD カードのフォーマット機能がありません。
フォーマットしていない SD カードは、SD フォーマッター*でフォーマットしてから使用してください。フォーマットすると、記録されていた内容は消去されます。またフォーマットしていない SD カードや指定方法以外でフォーマットした SD カードを使用すると、正常に動作しないことや性能低下することがあります。
- ※ SD フォーマッター：SD/SDHC 規格を使用したメモリーカードの性能が最適となるようにフォーマットするソフトウェアです。フォーマッターの入手は、SD アソシエーションのホームページまたはお買い上げ販売店にお問い合わせください。

著作権について

- ・ 本製品の設定ソフトウェアを使ってお客様ご自身で楽曲データを複製し、複製したデータを本体に取り込んだり取り出したりできますが、当該複製行為および複製したデータを利用することは、楽曲（データ）にかかる著作権者等の権利を侵害する場合がありますので、十分ご注意ください。
当社は、これらの行為による一切の損害、責任を負いかねます。
お客様が、新規チャイム登録して新たな楽曲を追加登録しご使用される場合には、その楽曲の著作権者等から利用許諾を得る必要があります。

情報セキュリティに関するご注意

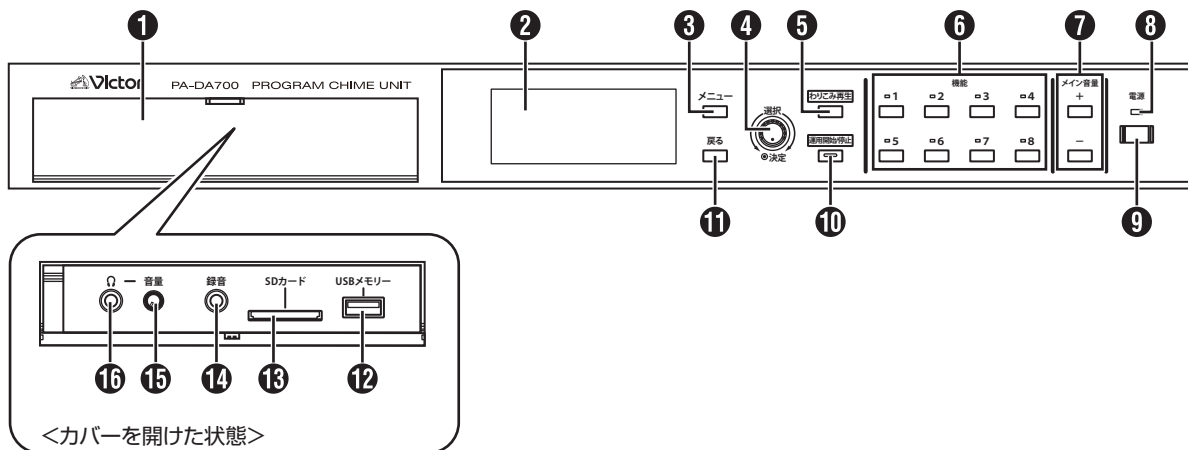
本機は、電気通信事業者（移動通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダー等）の通信回線（公衆無線 LAN を含む）に直接接続することができません。
本機をインターネットに接続する場合は、販売店または弊社営業窓口にご相談のうえ、必ずルーター等を經由して接続してください。

パスワードについて

容易に推測されないパスワードを設定してください。また、パスワードは定期的に変更してください。

各部の名称とはたらき

前面

**① カバー**

SD カードや USB メモリーを接続するときやヘッドホンを使用するとき、または録音を行うときに、カバーを開けて使用します。

② ディスプレイ

待機中画面、運用中画面、設定画面などの各種画面が表示されます。

③ 【メニュー】 ボタン

設定画面のメインメニューを表示するときに押します。(P.10)

④ 【選択】 ダイヤル / 【決定】 ボタン

設定をするときに使用します。(P.11)
ダイヤルを回すと、ディスプレイ上のカーソルの項目を上下、または左右に選択します。
カーソルのある項目を決定、または動作を実行するときはボタンを押します。

⑤ 【わりこみ再生】 ボタン

スケジュールや【機能】ボタンによる運用に割り込んで、放送を行うときに押します。

⑥ 【機能】 1～8 ボタン

特別な動作（たとえば、祝祭日用のスケジュール）を割り当てておき、運用中に押すと、特別な動作に切り換えることができます。

機能ボタンの動作中は、ボタンの上の表示灯が点灯します。

⑦ 【メイン音量】 + / - ボタン

音声出力端子 (⑦) から出力する音量を調節します。(P.21)

⑧ 電源表示灯

電源が入のときに、緑色に点灯します。

⑨ 【電源】 ボタン

本機の電源を入/切するときに押します。(P.10)

⑩ 【運用開始/停止】 ボタン

スケジュール運用中と待機中を切り換えます。(P.10)

⑪ 【戻る】 ボタン

設定中に一つ前の項目に戻るときに押します。(P.11)

⑫ USB メモリー端子

USB メモリーを接続します。設定ソフトウェアで作成したスケジュールなどの設定や追加音源のデータを USB メモリーから本機に取り込みます。また、USB メモリーに本機の設定や追加音源を取り出し、他の PA-DA700 に取り込みます。(P.20)

⑬ SD カードスロット

SD カードを出し入れします。SD カードには追加音源ファイルを保存し、本機で参照して再生できます。録音をする場合、録音音源ファイルが SD カードに保存されます。また、SD カードに本機の設定や追加音源を取り出し、他の PA-DA700 に取り込みます。(P.20)

⑭ 録音入力端子

音源を録音するときに、プラグ径がφ 3.5mm のオーディオケーブルなどを使用して他の機器などを接続します。

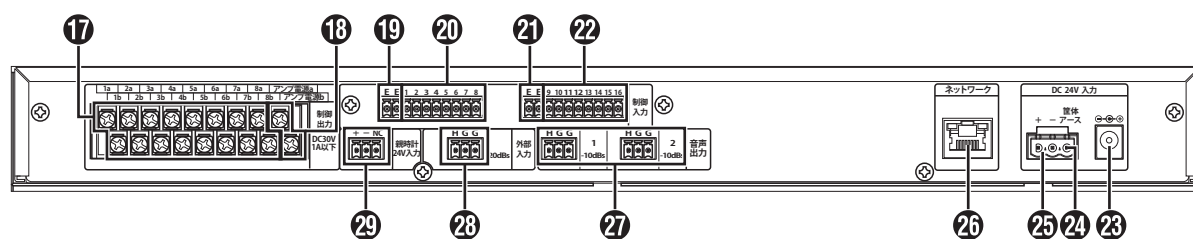
⑮ ヘッドホンボリューム

ヘッドホン端子 (⑮) から出力する音量を調節します。右に回すと音が大きく、左に回すと音が小さくなります。

⑯ ヘッドホン端子

プラグ径がφ 3.5mm のヘッドホン接続し、チャイムや BGM の再生状態を確認します。

背面

**17 制御出力端子 (1～8)**

被制御機器（アンプなど）を接続します。（P.18）

18 アンプ電源制御出力端子

アンプの起動入力端子と接続します。音源再生時に連動して動作します。（P.15）

19 制御入力 E 端子

制御入力端子 1～8 (20) に接続する機器のコモンまたは E 端子を接続します。（P.17）

20 制御入力端子 (1～8)

スイッチやセンサーなどの本機を制御する機器を接続します。この端子に接続した機器から本機を特別な動作（アナウンス再生やスケジュール停止など）に切り換えることができます。（P.17）

21 制御入力 E 端子

制御入力端子 9～16 (22) に接続する機器のコモンまたは E 端子を接続します。

22 制御入力端子 (9～16)

スイッチやセンサーなどの本機を制御する機器を接続します。この端子に接続した機器から本機を特別な動作（アナウンス再生やスケジュール停止など）に切り換えることができます。（P.17）

23 DC ジャック

付属の AC アダプターを接続し、DC24V の電源を供給します。（P.19）

24 筐体アース端子

本機に接続した外部機器のアース端子、またはラックのアース端子に接続してください。安全アースではありません。

25 DC24V 入力端子

AC アダプターを使用せずに DC24V 電源を供給したいときや、停電時でも本機から再生したいときに接続します。（P.19）

26 ネットワーク端子

LAN ケーブルを使って本機をネットワークに接続します。ネットワークに接続すると複数の PA-DA700 を拡張モードで接続したり、PC から本機の設定や操作が行えます。（P.18）

メモ： _____

- CAT5e 以上のケーブルを使用してください。

27 音声出力端子 (1, 2)

本機の再生音声や外部入力端子に接続した外部機器の音声を出力します。（P.15）

メモ： _____

- 2 元放送を使用する場合は、「放送 1」の音声が音声出力端子 1、「放送 2」の音声が音声出力端子 2 から出力されます。

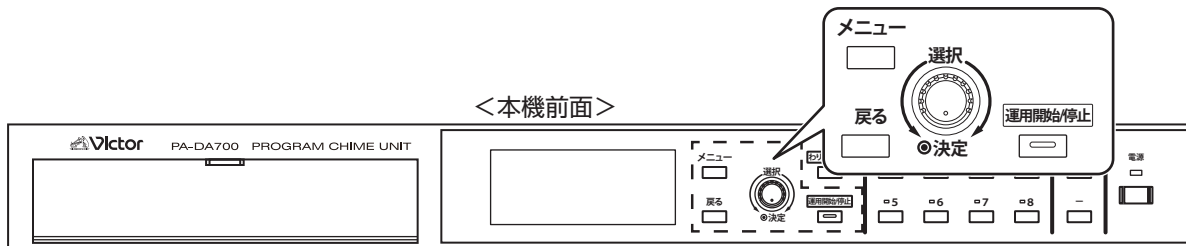
28 外部入力端子

外部音声機器（CD プレーヤーなど）を接続します。（P.16）

29 親時計 24V 入力端子

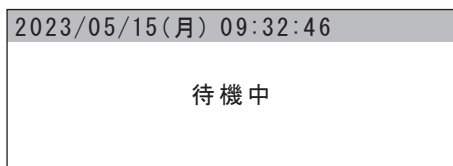
30 秒式の親時計と接続します。親時計からの 24V 信号を受信し、本機内部時計の時刻補正を行います。（P.16）

基本操作

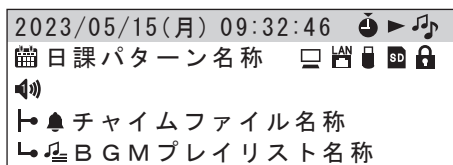


■ 電源を入れる

【電源】を押します。
待機中画面または運用中画面が表示されます。
<待機中>



<運用中>



メモ :

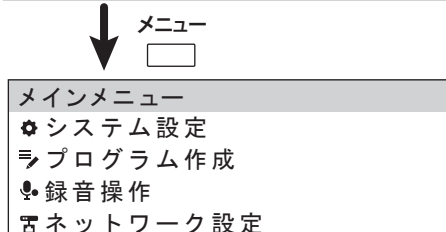
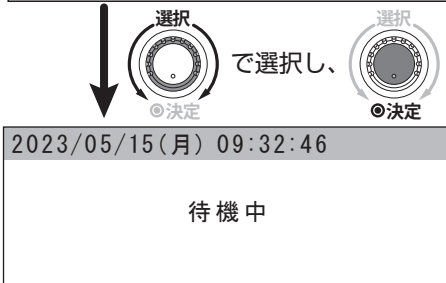
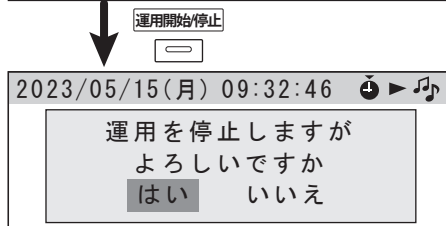
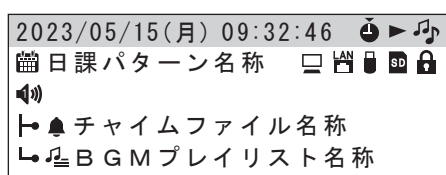
- 「オートスタート」の設定により、電源を入れたときの状態が変わります。(P.27)
- 運用開始時に、挿入しているSDカードに現在の設定よりも新しい設定データが保存されていた場合、取り込み確認画面が表示されます。「はい」を選ぶと、SDカードの設定データを取り込んでから運用中になります。

■ 電源を切る

【電源】を押します。
確認画面が表示されるので、「はい」を選んで【決定】を押すと、電源表示灯とディスプレイの表示が消えて本機の動作が停止します。

■ 設定メニューを開く

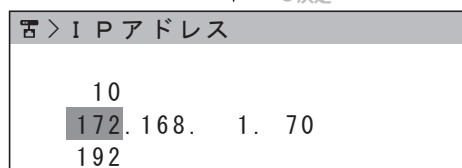
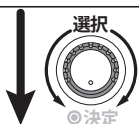
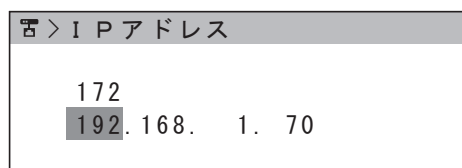
設定メニューは、本機の運用中は使用できません。
【運用開始/停止】を押して運用を停止してから、【メニュー】で設定メニューを開きます。



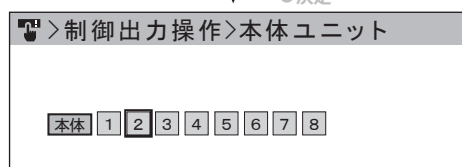
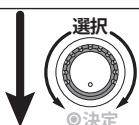
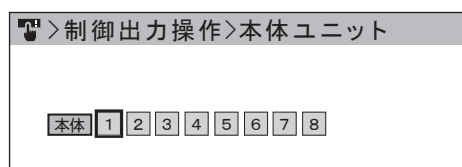
■ 項目を選択する

本機では、ディスプレイ右側にある【選択】ダイヤルと【決定】ボタンを使って、画面に表示される項目を選択、決定します。

選択項目が縦に並んでいる場合は、【選択】ダイヤルを右に回すと項目が上方向に、左に回すと項目が下方向に移動します。



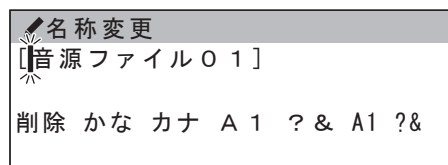
選択項目が横に並んでいる場合は、【選択】ダイヤルを回すとカーソルが移動して選択している項目が切り替わります。



選択が終了したら、【決定】を押して決定します。
【戻る】を押すと、1つ前の操作に戻ります。

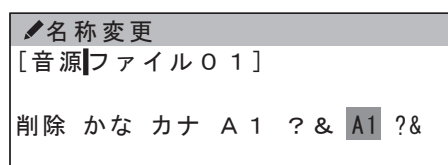
■ 文字入力のかた

パスワードの設定や名称変更などで文字を入力する場合は、以下の操作で行います。



1. 文字を入力したい位置にカーソルを移動し、【決定】を押す

カーソルが点滅から点灯に切り換わり、文字の種別が選択できるようになります。



2. 入力したい文字の種別を選択し、【決定】を押す

入力できる文字の種別は、以下のとおりです。

- 全角ひらがな、全角カタカナ、全角英数、全角記号、半角英数、半角記号

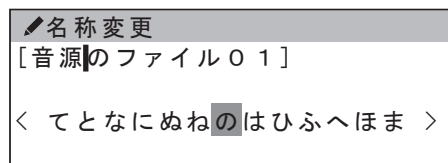
メモ:

- 本機では半角カナ文字は使用できません。

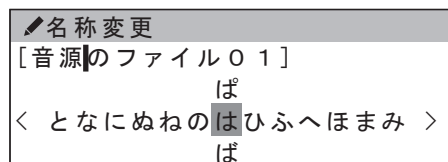
• 「削除」を選択して【決定】を押すと、カーソル位置のすぐ右の1文字が削除されます。カーソル位置が右端の場合は、カーソル左の1文字が削除されます。

3. 入力したい文字を選択し、【決定】を押す

カーソル位置に文字が入力されます。

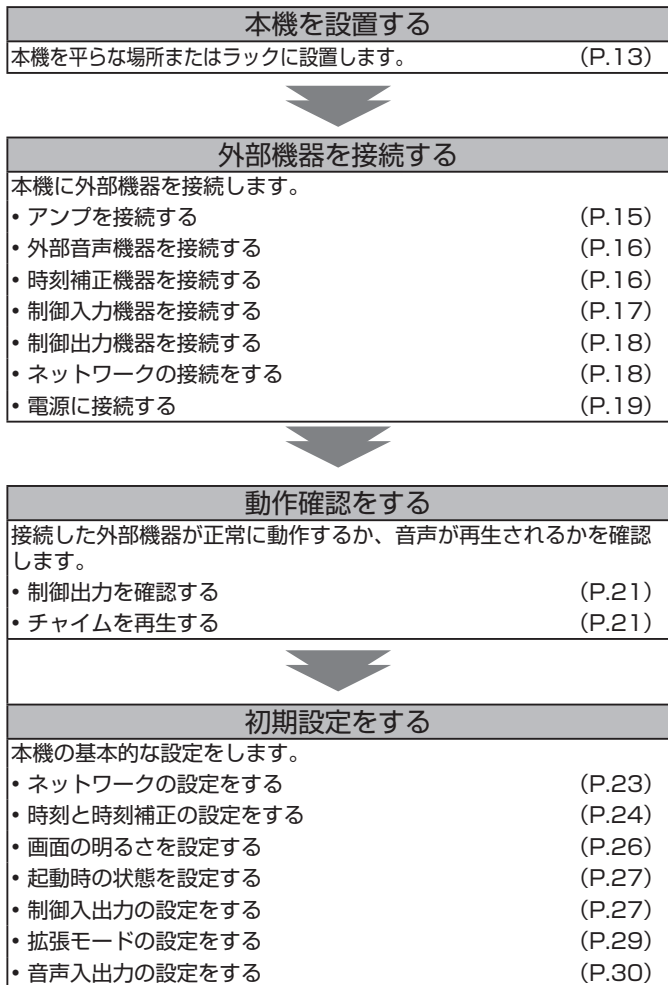


• かな文字で濁音や半濁音、小文字を入力したい場合は、元の文字を選択して【決定】を押してから、さらにダイヤルで選択して【決定】を押します。



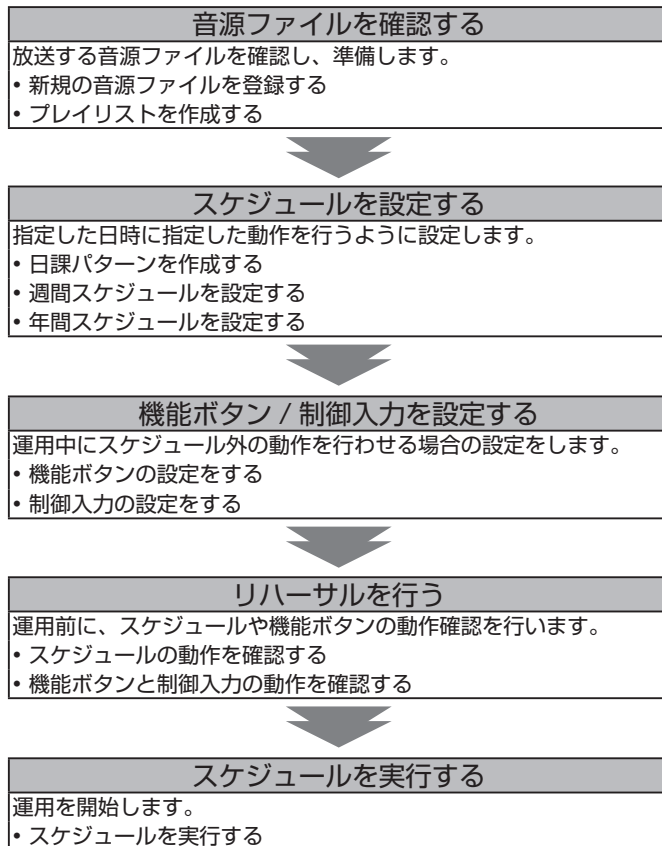
設置・設定の流れ

設置からスケジュールを実行するまでの設置・設定の流れは以下ようになります。



『取扱説明書 操作・設定編』へ続きます

『取扱説明書 操作・設定編』での設定



本機を設置する

本機を平らな場所に設置します。

■ お客様へ

- 設置・接続作業には専門技術が必要となります。販売店または最寄りのサービス窓口にご依頼ください。
- 設置・接続作業を行うときには、設置業者様に本書をお渡しください。

■ 販売店または設置業者様へ

- 設置・接続作業を行う前に必ずお読みいただき、正しく設置・接続を行なってください。お読みになったあとは、お客様へお渡しください。

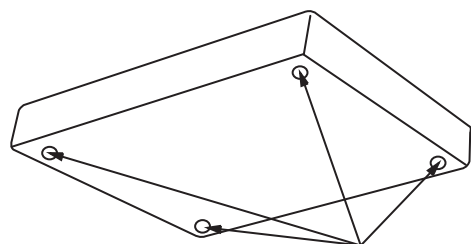
■ 設置上の注意

- 設置・接続作業は、電源を切ってから行なってください。
- 時刻修正の親時計は 30 秒式のものをご使用ください。本機は 1 秒式の親時計では時刻修正ができません。

本機を据え置きで使用する

本機を据え置きで使用する場合は、付属品のフットを本機底面に貼り付けて設置します。

シャーシ裏面の丸穴の位置を目安にして、本機に添付のフット(4 個)をシャーシに貼り付けてください。



フットを取り付ける (4箇所)

本機をラックに取り付ける

本機をラックに取り付けるには、別売のラックマウント金具 (PS-RU11) が必要です。あらかじめご注意ください。本機を取り付けるラックは、以下のいずれかをご使用ください。

スタンダードラック	PA-R631B (収納ユニット数 31U、当社製品)
ロングラック	PA-R641B (収納ユニット数 41U、当社製品)
EIA 規格相当品	奥行 450mm 以上のもの (他社製品)

■ 取り付け手順

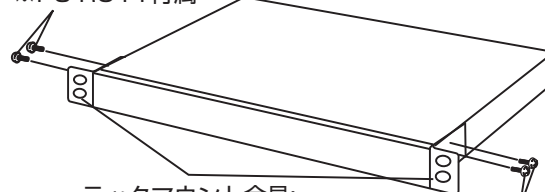
ご注意:

- ラック内に電力増幅ユニットがある場合、電力増幅ユニットとの間を 1U 以上空けて本機を設置してください。
- ラック内の温度が 40℃ 以上にならないようにしてください。

1. 本機の左右側面の取付ねじ 4 本をはずす
2. PS-RU11 に付属の取付ねじ (M4 × 10mm) 4 本を使って、本機にラックマウント金具 (PS-RU11) を取り付ける

取付ねじ (M4 × 10mm)

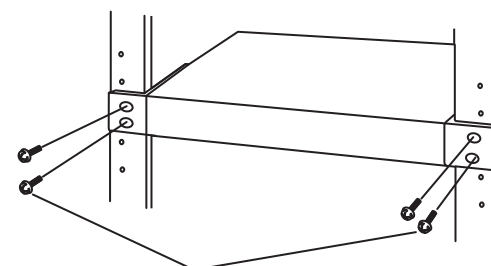
※PS-RU11 付属



ラックマウント金具:
PS-RU11 (別売)

取付ねじ
(M4 × 10mm)
※PS-RU11 付属

3. ラック取付ねじ (M5 × 12mm) 4 本を使って、本機をラックに取り付ける



ラック取付ねじ (M5 × 12mm) × 4本
※PS-RU11 付属

ご注意:

- 取付ねじやラック取付ねじは、必ず指定のものをご使用ください。指定以外の長いねじや短いねじを使用すると、故障や落下の原因となります。

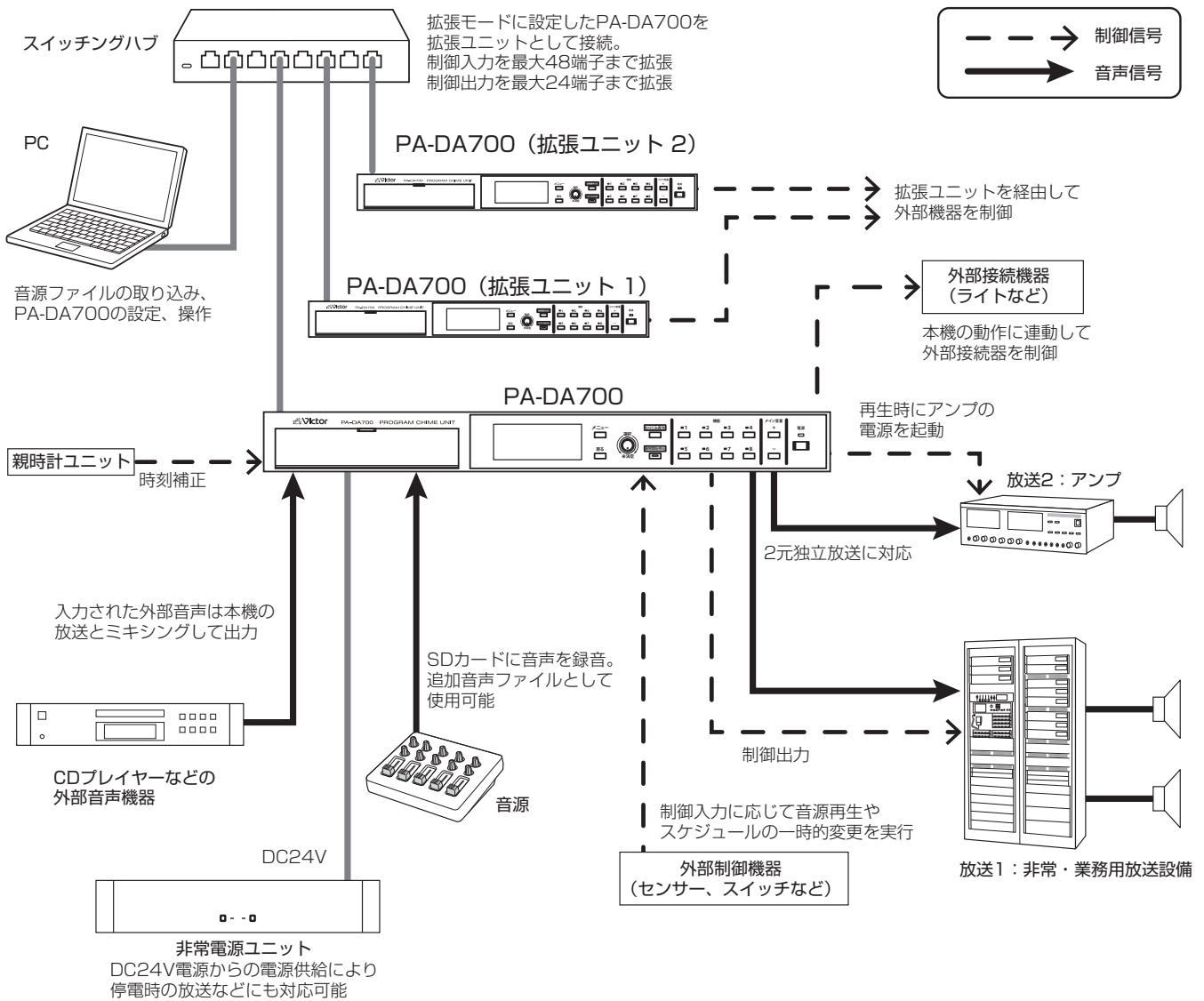
本機に外部機器を接続する

接続する外部機器の詳細については、各外部機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意：

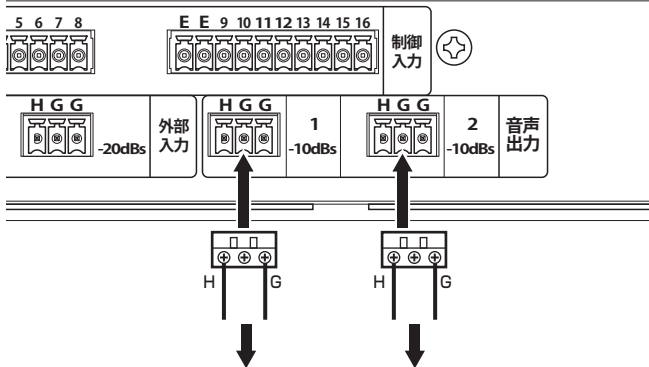
- ・本機に外部機器を接続するときは、必ず電源を切ってから行ってください。

システム構成例



アンプを接続する

本機の音声出力 1、音声出力 2 端子とアンプや非常・業務用放送設備の音声入力端子を接続します。



アンプなどの音声入力端子へ接続

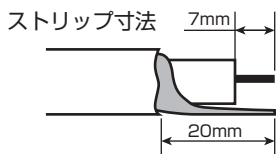
付属の 3P コネクター端子台(3.5mm ピッチ)を使用します。

3P コネクター端子台への接続方法

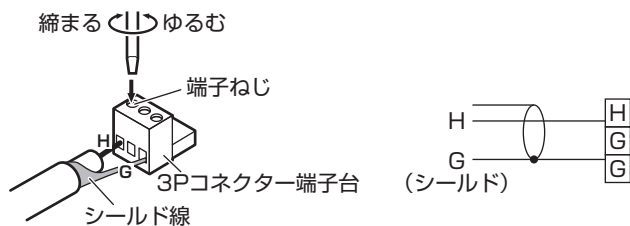
ご注意:

- 3P コネクター端子台は、必ず添付されているものを使用してください。
- 異なるユニットに添付されているものを使用した場合、嵌合の互換性がないため接触不良の原因となります。

1. シールド線の被覆を下図のように処理する



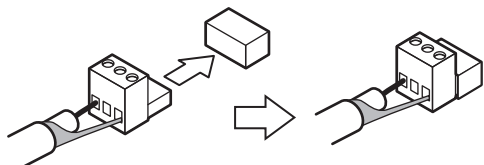
2. 芯線を各はさみ込み口に挿入し、端子ねじを締め付ける



メモ:

- 端子ねじを完全にゆるめてから芯線を挿入してください。

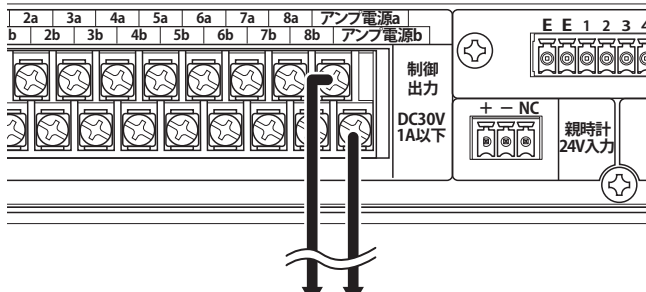
3. コネクター部を接続する端子台ベースに確実に差し込む



アンプ電源を制御する場合

本機のアンプ電源制御出力端子とアンプや非常・業務用放送設備の起動入力端子を接続します。

本機の再生に合わせて、アンプの電源を入/切できます。「起動ウェイト時間」の設定により、放送開始前にアンプの電源を入れて、音切れを防ぐことができます。(P.28)



アンプなどの起動入力端子へ接続

メモ:

- アンプ電源制御出力端子は、無電圧メーク接点です。リレー接点なので極性はありません。
- 非常・業務用放送設備の放送先を再生ごとに切り替える場合は制御出力端子で制御します。(P.18)

ご注意:

- 本機に接続する被制御機器は、DC30V、1A 以下のものを必ずご使用ください。DC30V、1A を超える被制御機器を使用すると、故障、火災の原因となります。

2 元放送を行う場合

本機では、本機の音声出力端子 1、音声出力端子 2 から別々の放送を出力する 2 元放送が行えます。

「放送 1」は音声出力端子 1、「放送 2」は音声出力端子 2 から出力されます。

本機のアンプ電源制御出力は、「放送 1」「放送 2」のどちらにも出力があっても動作します。

「放送 1」と「放送 2」で別々にアンプを接続する場合は、以下の表のように本機の制御出力端子とアンプの起動入力端子を接続してアンプの電源を制御します。

接続先	音声出力	制御出力
「放送 1」のアンプ	1	1 ~ 4
「放送 2」のアンプ	2	5 ~ 8

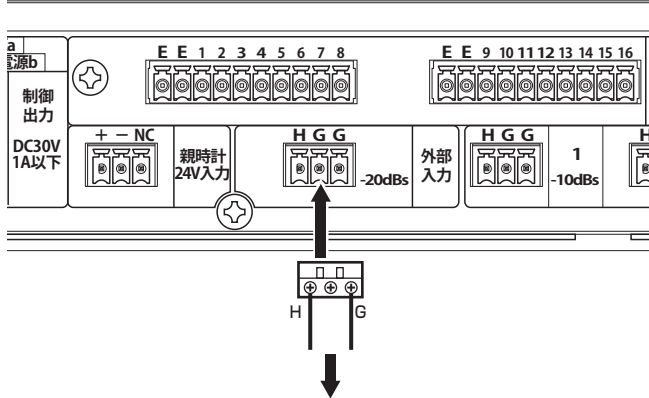
メモ:

- 制御出力端子は、無電圧メーク接点です。リレー接点なので極性はありません。

外部音声機器を接続する

本機の外部入力端子に、CD プレーヤーなどの外部音声機器を接続します。

本機からの放送に、外部音声機器からの音声をミキシングして出力できます。音声の優先順位やミキシングレベル、フェードイン/フェードアウトなどが設定できます。(P.30)



外部音声機器の音声出力
(ライン出力) など

付属の 3P コネクター端子台 (3.5mm ピッチ) を使用して、外部音声機器と接続します。コネクター端子台への接続については、「3P コネクター端子台の接続方法 (P.15)」をご覧ください。

時刻補正機器を接続する

親時計や接点で時刻補正信号を出力する機能を持つ外部機器を接続し、本機内部時計の時刻補正を行います。

メモ :

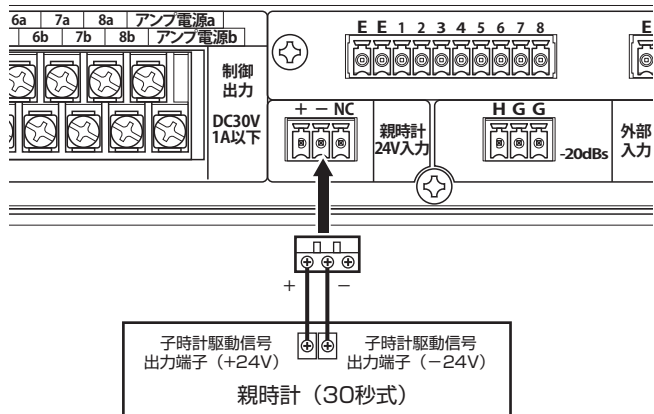
- 本機をネットワークに接続している場合、インターネットの NTP サーバーからの信号で時刻補正を行うこともできます。(P.24)
- 外部機器による時刻補正は運用中のみ動作します。

■ 親時計を使う場合

ご注意 :

- 本機は 1 秒式の親時計では時刻補正できません。必ず 30 秒式の親時計を接続してください。

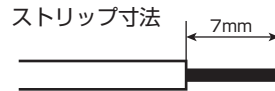
付属の 3P コネクター端子台 (3.5mm ピッチ) を使用して、本機の親時計 24V 入力端子と親時計を接続します。



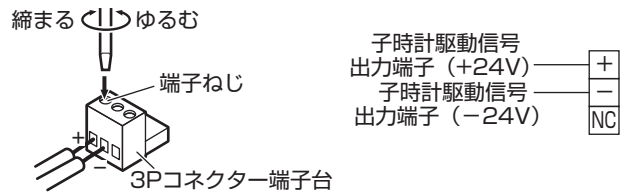
ご注意 :

- 3P コネクター端子台は、必ず添付されているものを使用してください。
- 異なるユニットに添付されているものを使用した場合、嵌合の互換性がないため接触不良の原因となります。

1. ケーブルの被覆を下図のように処理する



2. 芯線を各はさみ込み口に挿入し、端子ねじを締め付ける

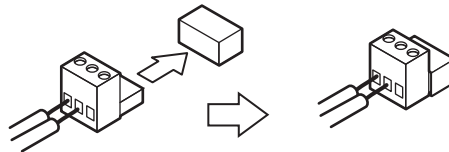


- + と - に接続し、NC には何も接続しないでください。

メモ :

- 端子ねじを完全にゆるめてから芯線を挿入してください。

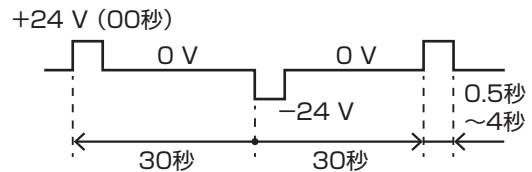
3. コネクター部を接続する端子台ベースに確実に差し込む



対応時計信号	DC24V、30 秒有極パルス (工業用親時計標準信号)
補正時刻	02 : 00、7 : 00、12 : 00、19 : 00
補正範囲	± 30 秒

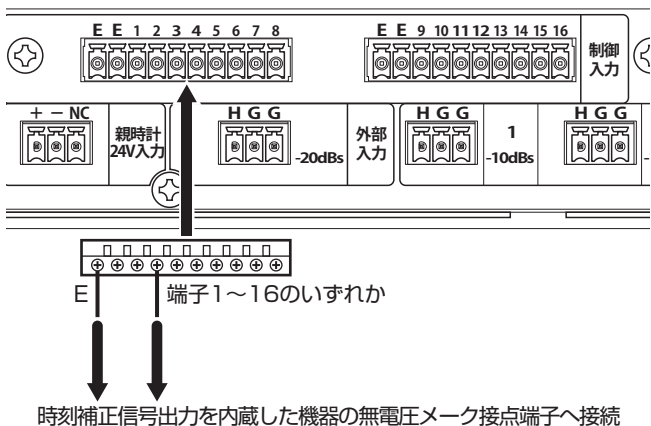
メモ :

- 本機の内部時計は以下の「30 秒式親時計」信号により時刻補正がされます。



■ 時刻補正信号出力機能を持つ外部機器を使う場合

本機の制御入力端子 1 ~ 16 のいずれかと、接点で時刻補正信号を出力する機能を持つ外部機器を接続します。



時刻補正に制御入力を使用する場合は、あわせて制御入力端子の機能を設定してください。(P.25)

10P コネクター端子台への接続については、右の「10P コネクター端子台の接続方法」をご覧ください。

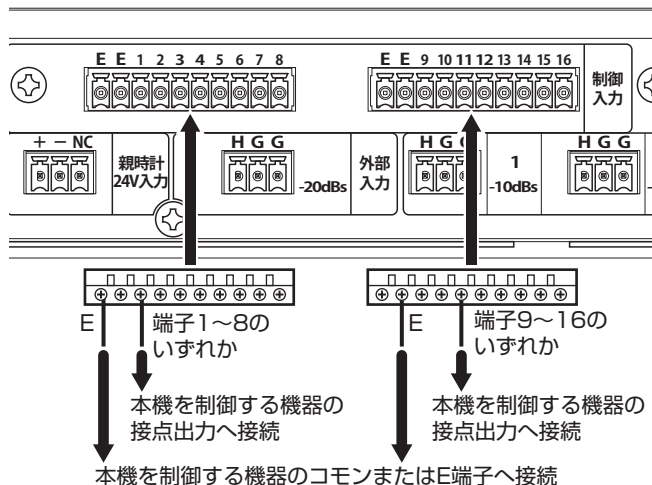
外部機器から本機を制御する

スイッチなどの制御機器を接続することで、制御機器からの入力で本機のスケジュール運用を一時的に変更したり、あらかじめ設定した音源ファイルを再生したりできます。

付属の 10P コネクター端子台を使用して、本機の制御入力端子 1 ~ 16 と、制御機器の接点出力（無電源メーク接点またはオープンコレクター出力）を接続します。制御機器のコモンまたは E 端子は、本機の制御入力端子 E と接続します。

制御入力に動作を割り当てるには、「制御入力」設定を行う必要があります。詳しくは『PA-DA700 取扱説明書 操作・設定編』の「制御入力端子の機能を設定する」をご覧ください。

<制御入力端子1および制御入力端子11に接続する場合>

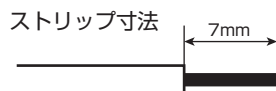


■ 10P コネクター端子台への接続方法

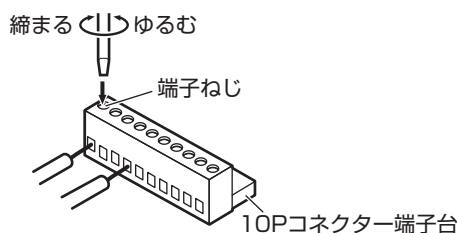
ご注意:

- 10P コネクター端子台は、必ず添付されているものを使用してください。
異なるユニットに添付されているものを使用した場合、嵌合の互換性がないため接触不良の原因となります。
- 本機の制御入力端子は「無電圧メーク接点」、「オープンコレクター出力」に対応しています。電圧、電流を加えないでください。機器の故障の原因になります。

1. ケーブルの被覆を下図のように処理する



2. 芯線を各はさみ込み口に挿入し、端子ねじを締め付ける



メモ:

- 端子ねじを完全にゆるめてから芯線を挿入してください。

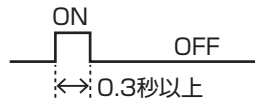
3. コネクター部を接続する端子台ベースに確実に差し込む

制御入力端子の仕様は以下のとおりです。

無電圧メーク接点、オープンコレクタによる制御に適合、0.3 秒以上
・動作レベル (ON): 1V 以下 (対 E(GND) 間インピーダンス 1k Ω 以下)
・不動作レベル (OFF): 3V 以上 (対 E(GND) 間インピーダンス 10k Ω 以上)
動作 (ON) 時電流: 2mA 以下

メモ:

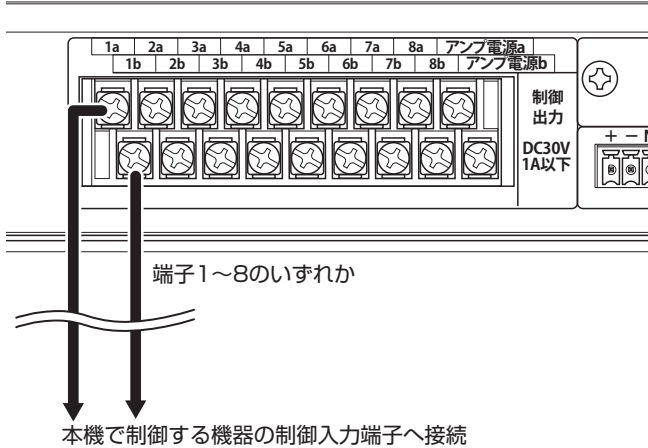
- 制御入力信号は、以下の条件を満たす必要があります。



本機で外部機器を制御する

本機からの信号で、外部機器を制御できます。機能ボタンや制御入力での音源再生時は、再生終了のタイミングで信号を出力して機器を動作させる終了連動も可能です。本機の制御出力端子 1～8 と、制御したい機器の制御入力端子を接続します。

<制御出力端子 1 に接続する場合>



ご注意：

- 本機に接続する被制御機器は、DC30V、1A 以下のものを必ずご使用ください。DC30V、1A を超える被制御機器を使用すると、故障、火災の原因となります。

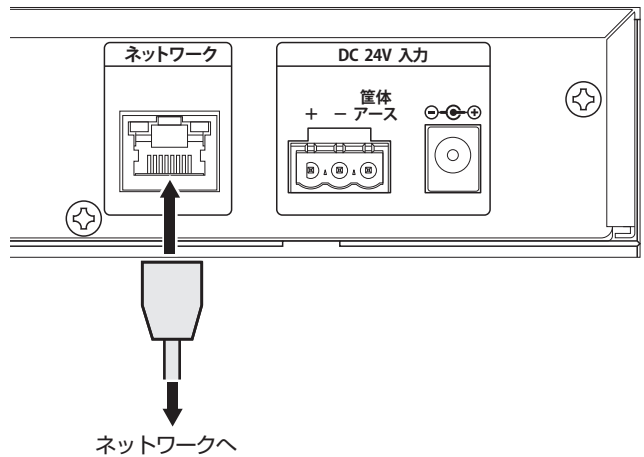
メモ：

- 制御出力端子は、無電圧メーク接点です。リレー接点なので極性はありません。
- 制御出力端子で非常・業務用放送設備を制御することで、再生ごとに放送先を切り替えることも可能です。

ネットワークに接続する

本機をネットワークに接続することで、以下のことができます。

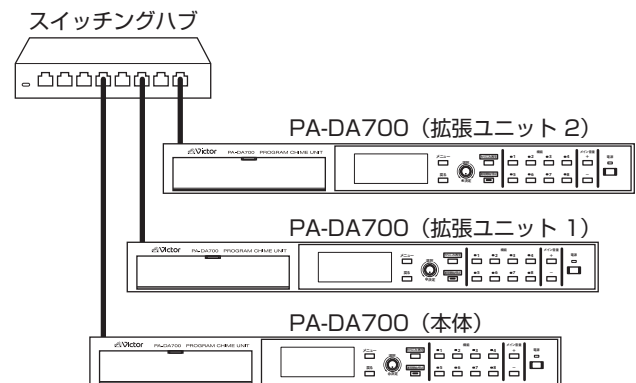
- NTP サーバーとの接続で、本機の時刻補正が行えます。(時刻補正は本機の運用中のみ動作します)
- PC と接続して、PC 上で本機の設定を変更したり、操作を行えます。
- 最大 2 台の PA-DA700 を拡張ユニットとして接続し、制御入力端子と制御出力端子を増やせます。
- 拡張ユニットを 2 台接続する場合はスイッチングハブが必要です。



■ 本製品を複数台使用する場合

PA-DA700 を複数台使用し、本体 1 台に対して同一ネットワーク上の PA-DA700 を最大 2 台まで拡張ユニットとして、制御入出力の数を増やすことができます。

本機と拡張ユニットの【LAN】端子を、スイッチングハブに接続します。

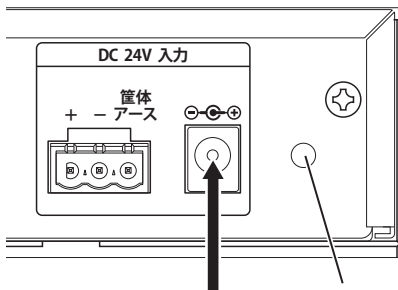


拡張ユニットとして使用する PA-DA700 側は拡張モードに設定し、本体とする PA-DA700 側で接続する設定を行ってください。設定方法について詳しくは『制御入出力を拡張する (P.29)』をご覧ください。

電源に接続する

■ 付属の AC アダプターを使用する場合

本機の DC24V 入力の DC ジャックに、付属の AC アダプターを接続し、電源コードを接続します。



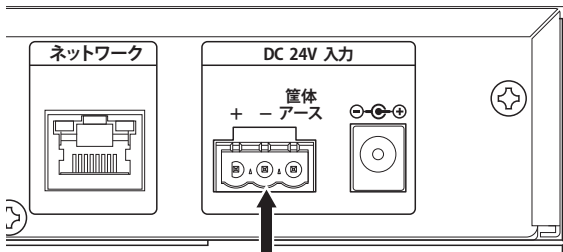
付属の AC アダプター
付属のワイヤークランプを取り付け、
クランプで AC アダプターのケーブル
を固定します。

ご注意：

- AC アダプターを抜き差しするときは、必ず AC プラグを先に抜いてから本機側の抜き差しを行なってください。

■ DC24V 電源供給機器を接続する

非常・業務用放送設備などの DC24V 供給端子と接続することで、停電時でも本機を動作させることができます。付属の 3P コネクター端子台 (5.08mm ピッチ) を使用して、本機の DC24V 入力端子と、非常・業務用放送設備などの DC24V 供給電源を接続します。



DC24V 電源供給機器

ご注意：

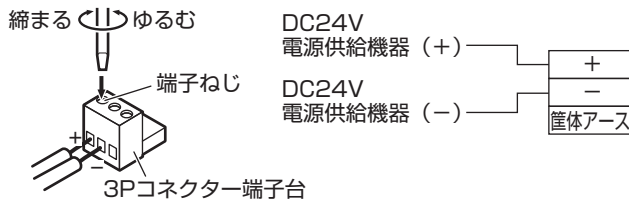
- 3P コネクター端子台は、必ず付属のものを使用してください。異なるユニットに添付されているものを使用した場合、嵌合の互換性がないため接触不良の原因となります。
- DC24V 入力端子を接続する場合は、本機に AC アダプターを接続しないでください。

1. ケーブルの被覆を下図のように処理する

ストリップ寸法



2. 芯線を各はさみ込み口に挿入し、端子ねじを締め付ける



- 筐体アース端子は、本機に接続した外部機器のアース端子、またはラックのアース端子に接続してください。安全アースではありません。

メモ：

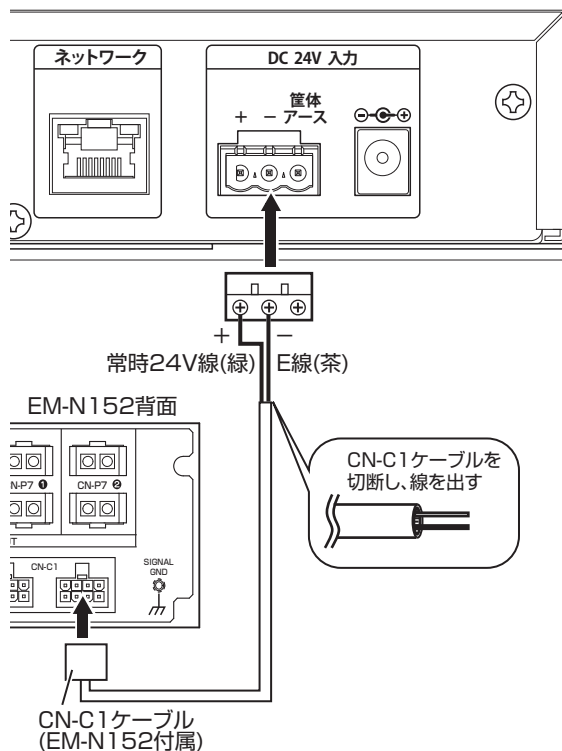
- 端子ねじを完全にゆるめてから芯線を挿入してください。

3. コネクター部を接続する端子台ベースに確実に差し込む

■ 非常業務予備電源ユニット (EM-N152) を接続する場合

EM-N152 の詳細については、非常用放送設備の設置説明書をご覧ください。

- コネクタ端子台の + 端子に CN-C1 ケーブルの常時 24V 線 (緑) を接続する
- コネクタ端子台の - 端子に CN-C1 ケーブルの E 線 (茶) を接続する



ご注意：

- 非常用放送設備と組み合わせて使用する場合は、本機専用の非常業務予備電源ユニット (EM-N152) を接続してください。やむをえず非常放送設備用の EM-N152 に接続する場合は、消防法上必要となる蓄電池の容量および EM-N152 の台数の再計算が必要となります。

SD カード / USB メモリーを入れる

本機は、記憶装置として SD カードと USB メモリーが使用できます。

本機に挿入した SD カードは以下の用途に使用できます。

- 録音した音声ファイルの保存
- ユーザー追加音源ファイルの参照元
- ユーザー追加音源ファイルの取り出し / 取り込み
- バックアップデータの保存
- 設定データの取り出し / 取り込み

メモ：

- SD カードに保存されているユーザー追加音源ファイルは、本機に取り込まなくても音源として選択、再生が可能です。

本機に接続した USB メモリーは以下の用途に使用できます。

- ユーザー追加音源ファイルの取り出し / 取り込み
- 設定データの取り出し / 取り込み

■ 本機が対応している SD カード / USB メモリーについて

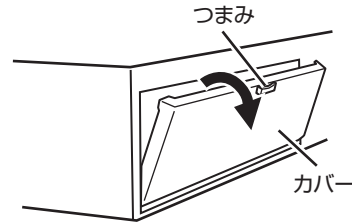
本機は、以下の SD カード / USB メモリーに対応しています。

- USB メモリー
USB2.0、Type-A
対応デバイス：マストレージクラス
ファイルシステム：FAT32
- SD カード
SD、SDHC（最大 32GB）対応

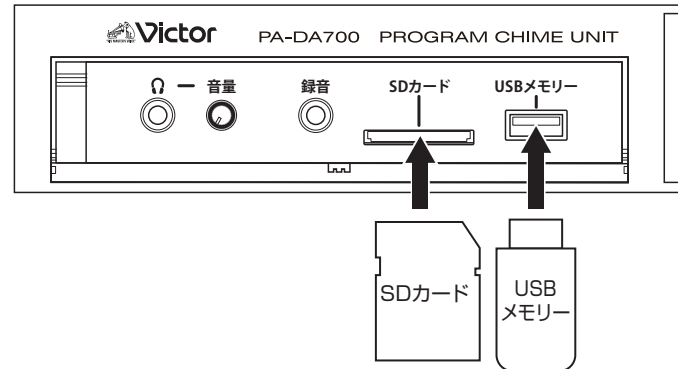
動作確認済みの SD カードを使用することをお勧めします。
動作確認済みの SD カードについては、販売店にお問い合わせください。

SD カード / USB メモリーを挿入する

1. 本機前面のカバーのつまみに指をかけ、手前に開く



2. SD カード / USB メモリーを挿入する



- SD カードは、カチッと音がするまで押し込んでください。

SD カード / USB メモリーを取り外す

挿入した SD カードや USB メモリーを取り外します。

1. 【メニュー】を押す
 2. 「機器操作」を選択し、【決定】を押す
 3. 「SD / USB 取り外し」を選択し、【決定】を押す
 4. 「SD カード」または「USB メモリー」から、取り外すメディアを選択し、【決定】を押す
 5. 「取り外し」を選択し、【決定】を押す
- 選択した SD カード / USB メモリーが安全に取り外せるようになります。

■ SD カードの取り外し

1. SD カードをカチッと音がするまで押す
2. SD カードをまっすぐに引き抜く

接続した外部機器の動作を確認する

制御出力の動作を確認する

制御出力端子に接続した外部機器が正常に動作するかを確認します。

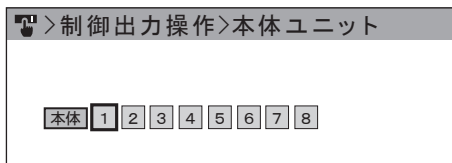
拡張ユニットの制御出力を使用する場合は、あらかじめ拡張ユニットの設定と接続が必要です。『本製品を複数台使用する場合 (P.18)』及び『ネットワークの設定をする (P.23)』、『制御入出力を拡張する (P.29)』の説明にしたがって拡張ユニットを接続してください。

1. 【メニュー】を押す
2. 「機器操作」を選択し、【決定】を押す
3. 「制御出力操作」を選択し、【決定】を押す

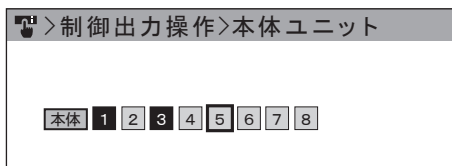


4. 「本体」「EXT1」「EXT2」から制御出力を確認したいユニットを選択し、【決定】を押す
 - 拡張ユニット 1 の制御出力を選択する場合は「EXT1」を、拡張ユニット 2 の制御出力を選択する場合は「EXT2」を選びます。

制御出力端子が選択できるようになります。



5. 動作させたい制御出力端子の番号を選ぶ



【決定】を押すごとに、選択した制御出力端子の動作 / 停止が切り換わり、外部機器の動作を確認できます。

6. 【戻る】を押す
「制御出力操作」画面で【戻る】を押すと、すべての制御出力が停止します。

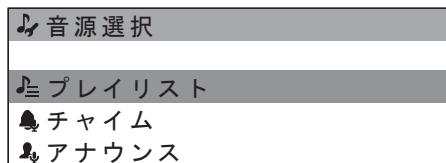
音源を再生する

チャイムを再生して、音声が入力されているか確認します。

1. 運用中に【わりこみ再生】を押す
わりこみ再生の設定画面が表示されます。



2. 「音源」を選び、音源の種類を選択して【決定】を押す



- 「プレイリスト」:
「プレイリスト」を選択した場合、「チャイム/アナウンス」「BGM」からプレイリストの種類を選択します。
- 「チャイム」「アナウンス」「BGM」:
「チャイム」「アナウンス」「BGM」を選択した場合、「プリセット音源」と「ユーザー追加音源」から選択します。「ユーザー追加音源」の場合は、更に「内蔵メモリ」と「SDカード」から選択します。

3. 一覧から音源を選択し、【決定】を押す
4. 「設定」を選択し、【決定】を押す
わりこみ再生の出力設定画面が表示されます。



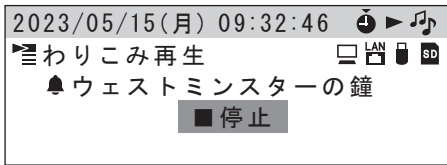
5. 「音量」を選択して【決定】を押し、「0」～「10」から選択して【決定】を押す (初期値: 8)
6. 「音声出力」を選択して【決定】を押し、出力する音声出力端子を選択する
 - 音声出力端子の番号を選択して【決定】を押すごとに、出力のオン / オフが切り換わります。設定が完了したら、【戻る】を押します。
7. 「本体」「EXT1」「EXT2」から機器を選択して【決定】を押し、出力する端子を選択する
 - 端子を選択して【決定】を押すごとに、端子の有効 / 無効が切り換わります。設定が完了したら、【戻る】を押します。
8. 「放送開始」を選択し、【決定】を押す
わりこみ再生の再生画面が表示されます。



9. 「▶再生」を選択し、【決定】を押す

スケジュール／機能ボタン／制御入力の動作が停止することの確認画面が表示されます。

確認画面で「OK」を選択して【決定】を押すと、わりこみ再生を開始します

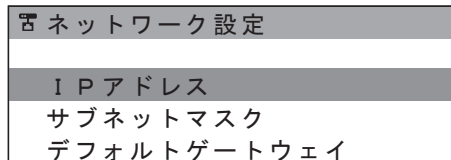


- 【メイン音量】で音声出力端子からの音量を調整できます。
- 「■ 停止」を選択して【決定】を押すと停止確認画面が表示されます。停止確認画面で「はい」選ぶと、再生と制御出力が停止します。

ネットワークの設定をする

NTP サーバーによる時刻補正および制御入出力拡張機能、PC による本機の設定・操作を行うためには、事前にネットワーク設定をしておく必要があります。

1. 【メニュー】を押す
2. 「ネットワーク設定」を選択し、【決定】を押す
3. 設定したい項目を選択し、【決定】を押す



項目と設定については、以下を参照してください。

- 「IPアドレス」:
⇒ 『「IPアドレス」を選択した場合』
- 「サブネットマスク」:
⇒ 『「サブネットマスク」を選択した場合』
- 「デフォルトゲートウェイ」:
⇒ 『「デフォルトゲートウェイ」を選択した場合』
- 「MTU」:
⇒ 『「MTU」を選択した場合』

4. 設定を反映させる

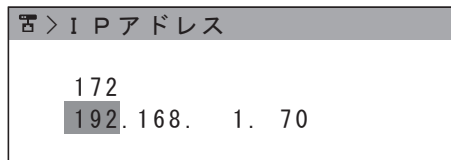
設定を変更している場合、設定を反映させるには再起動が必要です。「機器操作」メニューにある「再起動」を選択して【決定】を押し、次の画面で「はい」を選んで本機を再起動してください。

ご注意:

- 【電源】 ボタンを押して再起動しても設定は反映されません。必ず「機器操作」メニューにある「再起動」から実行してください。

■ 「IPアドレス」を選択した場合

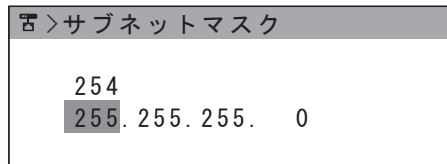
1. IPアドレスを設定し、【決定】を押す
(初期値：192.168.1.70)



- 【決定】を押すごとにカーソルが右に移動します。
- 一番右の欄で【決定】を押すとIPアドレスが設定され、前の画面に戻ります。

■ 「サブネットマスク」を選択した場合

1. サブネットマスクを設定し、【決定】を押す
(初期値：255.255.255.0)



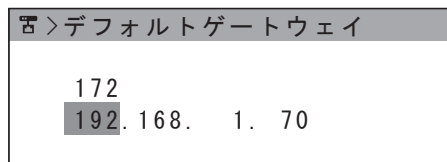
- 【決定】を押すごとにカーソルが右に移動します。
- 一番右の欄で【決定】を押すと、前の画面に戻ります。

■ 「デフォルトゲートウェイ」を選択した場合

メモ：

- デフォルトゲートウェイを設定しない場合には、0.0.0.0を入力してください。

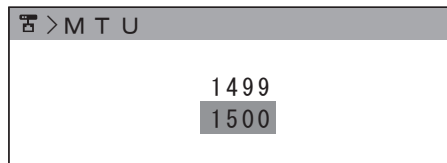
1. デフォルトゲートウェイを設定し、【決定】を押す
(初期値：0.0.0.0)



- 【決定】を押すごとにカーソルが右に移動します。
- 一番右の欄で【決定】を押すと、前の画面に戻ります。

■ 「MTU」を選択した場合

1. MTUを設定し、【決定】を押す (初期値：1500)

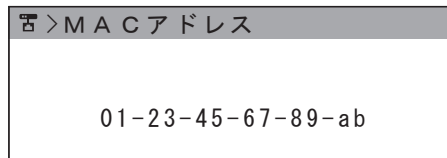


- MTU の設定できる範囲は 1280 - 1500 です。
- 【決定】を押すと、前の画面に戻ります。

MACアドレスの確認をする

本機のMACアドレスを確認できます。

1. 【メニュー】を押す
2. 「ネットワーク設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「MACアドレス」を選択し、【決定】を押す

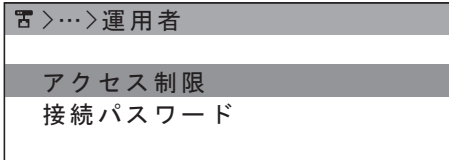


MACアドレスが表示されます。

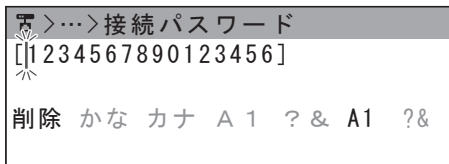
リモート操作の設定をする

ネットワーク上から本機に接続するための設定をします。

1. 【メニュー】を押す
2. 「ネットワーク設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「リモート操作」を選択し、【決定】を押す
4. 「運用者」または「設置者」を選択し、【決定】を押す
5. 設定したい項目を選択し、【決定】を押す



- 「アクセス制限」：(初期値：拒否)
運用者 / 設置者が本機に接続して操作できるかを「拒否」または「許可」から選択します。
- 「接続パスワード」：
運用者 / 設置者が本機に接続する際のパスワードを設定します。文字入力の方法については『文字入力のしかた』をご覧ください。(P.11)



ご注意：

- 容易に推測されないパスワードを設定してください。また、パスワードは定期的に変更してください。

6. 設定が完了したら、【戻る】を押す

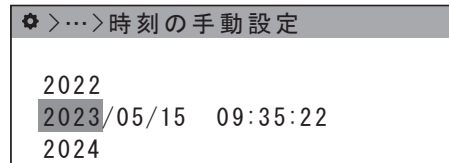
時刻を合わせる

本機の時刻を設定します。手動設定と、外部からの信号による自動補正があります。

手動で時刻を合わせる

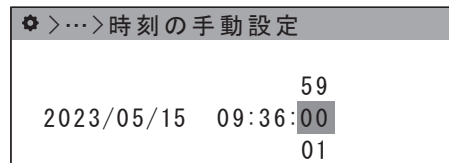
手動で任意の時刻に時計を合わせることができます。本機に時刻補正機器を接続していない場合は、以下の方法で時計を合わせてください。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「基本設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「時刻設定 / 補正確認」を選択し、【決定】を押す
5. 「時刻の手動設定」を選択し、【決定】を押す
6. 年を設定し、【決定】を押す



【決定】を押すと、カーソルが月に移動します。

7. 月 / 日 / 時 / 分 / 秒の順に時刻を合わせる。



秒を設定するときに電話の時報などに合わせて【決定】を押し、時刻を合わせます。

ネットワークで時刻を補正する

ネットワーク上のNTPサーバーからの情報で、時刻を自動設定します。

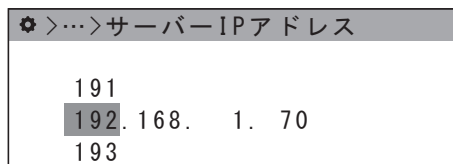
1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「基本設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「時刻設定 / 補正確認」を選択し、【決定】を押す
5. 「時刻補正方式」を選択し、【決定】を押す
6. 「NTP」を選択し、【決定】を押す (初期値：なし)



時刻補正の方法が、NTPサーバーと同期して時刻補正を行う方式に変更されます。

続けて、NTPサーバーのIPアドレスを設定します。

- 「NTP 設定」を選択し、【決定】を押す
- 「サーバー IP アドレス」を選択し、【決定】を押す
- IP アドレスを設定する（初期値：0.0.0.0）

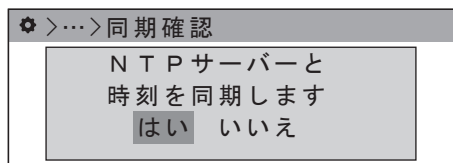


- 【決定】を押すごとにカーソルが右に移動します。
- 一番右の欄で【決定】を押すと IP アドレスが設定され、前の画面に戻ります。

■ NTP サーバーとの同期を確認する

NTP サーバーの IP アドレス設定が完了すると、本機と NTP サーバーとの同期が確認できるようになります。

- 【メニュー】を押す
- 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
- 「基本設定」を選択し、【決定】を押す
- 「時刻設定 / 補正確認」を選択し、【決定】を押す
- 「NTP 設定」を選択し、【決定】を押す
- 「同期確認」を選択し、【決定】を押す
同期の確認画面が表示されます。

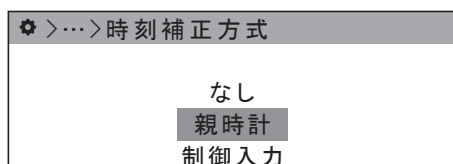


- 「はい」を選択して【決定】を押す
同期確認の結果が表示されます。【決定】を押すと、「NTP 設定」の画面に戻ります。

親時計で時刻を補正する

本機に接続した親時計からの信号で時刻を補正します。

- 【メニュー】を押す
- 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
- 「基本設定」を選択し、【決定】を押す
- 「時刻設定 / 補正確認」を選択し、【決定】を押す
- 「時刻補正方式」を選択し、【決定】を押す
- 「親時計」を選択し、【決定】を押す（初期値：なし）

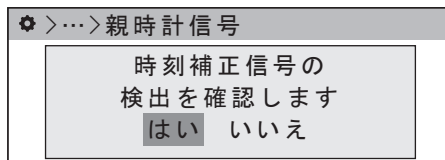


時刻補正の方法が、親時計からの信号で時刻補正を行う方式に変更されます。

■ 時刻補正信号を確認する

親時計方式で時刻補正を行う場合の、時刻補正信号が検出できるか確認します。

- 【メニュー】を押す
- 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
- 「基本設定」を選択し、【決定】を押す
- 「時刻設定 / 補正確認」を選択し、【決定】を押す
- 「補正信号確認」を選択し、【決定】を押す
- 「親時計信号」を選択し、【決定】を押す
検出の確認画面が表示されます。

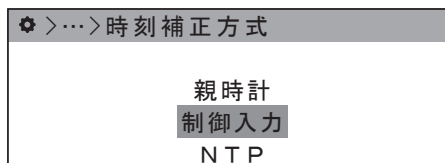


- 「はい」を選択して【決定】を押す
親時計からの信号を検出すると、結果画面が表示されます。【決定】を押すと、「補正信号確認」の画面に戻ります。

時計校正機能を持つ外部機器で時刻を補正する

本機に接続した外部機器からの信号で時刻を補正します。

- 【メニュー】を押す
- 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
- 「基本設定」を選択し、【決定】を押す
- 「時刻設定 / 補正確認」を選択し、【決定】を押す
- 「時刻補正方式」を選択し、【決定】を押す
- 「制御入力」を選択し、【決定】を押す（初期値：なし）

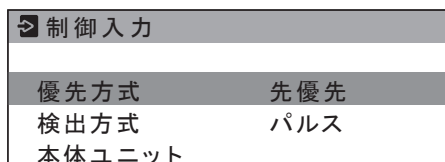


時刻補正の方法が、制御入力端子に接続した時計校正機能を持つ機器からの信号で時刻補正を行う方式に変更されます。

■ 制御入力端子の設定をする

制御入力方式で時刻補正を行う場合、制御入力端子の機能を時刻補正に設定する必要があります。

- 【メニュー】を押す
- 「プログラム作成」を選択し、【決定】を押す
- 「制御入力」を選択し、【決定】を押す
優先方式 / 検出方式の現在の設定と、ユニットが表示されず（初期値：後優先 / パルス）。



初期設定

4. 「検出方式」を選択し、【決定】を押す

5. 「パルス」を選択し、【決定】を押す

- 今までと異なる検出方式に設定した場合は、確認画面が表示されます。「OK」を選択して【決定】を押し、次に進みます。

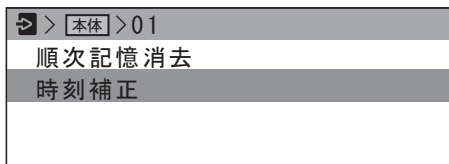
ご注意：

- 検出方式を変更した場合、機能の一部が無効になることがあります。詳しくは『取扱説明書（操作・設定編）』の『制御入力端子の機能を設定する』をご覧ください。

6. 「本体ユニット」を選択し、【決定】を押す

7. 時計校正機能をもつ外部機器を接続した制御入力の番号を選択し、【決定】を押す

8. 「時刻補正」を選択し、【決定】を押す



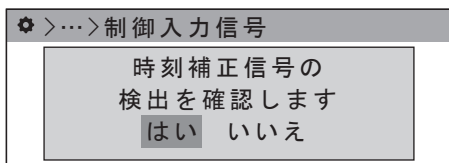
9. 設定が完了したら、【戻る】を押す

設定を保存する確認画面が表示されます。確認画面で「はい」を選んで【決定】を押すと、選択した制御入力に、時刻補正機能が割り付けられます。

■ 時刻補正信号を確認する

制御入力方式で時刻補正を行う場合の、時刻補正信号が検出できるか確認します。

1. 【メニュー】を押す
 2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
 3. 「基本設定」を選択し、【決定】を押す
 4. 「時刻設定 / 補正確認」を選択し、【決定】を押す
 5. 「補正信号確認」を選択し、【決定】を押す
 6. 「制御入力信号」を選択し、【決定】を押す
- 検出の確認画面が表示されます。



7. 「はい」を選択して【決定】を押す

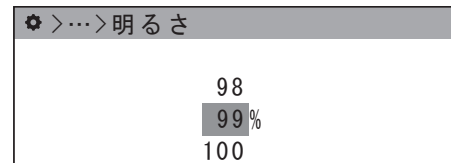
制御入力端子に接続した機器からの信号を検出すると、結果画面が表示されます。

【決定】を押すと、「補正信号確認」の画面に戻ります。

画面の表示を設定する

本機のディスプレイの明るさを設定します。

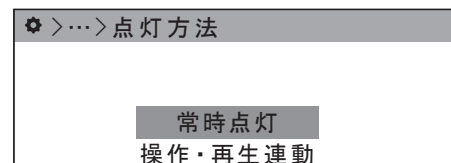
1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「基本設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「画面設定」を選択し、【決定】を押す
5. 「明るさ」を選択し、【決定】を押す
6. 100% ~ 30% から明るさを選択し、【決定】を押す（初期値：100%）



■ 点灯方法を設定する

本機のディスプレイの点灯方法を設定します。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「基本設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「画面設定」を選択し、【決定】を押す
5. 「点灯方法」を選択し、【決定】を押す
6. 点灯方法を選択し、【決定】を押す（初期値：常時点灯）



- 「常時点灯」：

常時点灯して運用 / 待機画面を表示します。

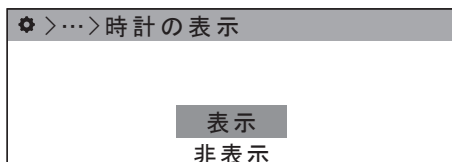
- 「操作・再生連動」：

ボタンを操作したり、音源を再生すると、それに連動して一定時間画面が点灯します。

■ 時計の表示 / 非表示を設定する

本機の時計の表示方法を設定します。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「基本設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「画面設定」を選択し、【決定】を押す
5. 「時計の表示」を選択し、【決定】を押す
6. 表示方法を選択し、【決定】を押す（初期値：表示）

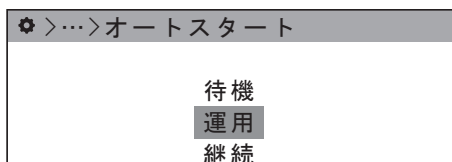


- 「表示」：
運用 / 待機画面にて常時表示します。
- 「非表示」：
運用 / 待機画面にて常時非表示になります。

起動時の状態を設定する

【電源】を押して本機を起動したときの、本機の初期状態を設定します。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「基本設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「オートスタート」を選択し、【決定】を押す
5. 起動状態を選択し、【決定】を押す（初期値：運用）



- 「継続」：
電源を落とした際の状態（運用 / 待機）を電源投入後も継続します。
- 「運用」：
電源を入れると自動で運用が開始されます。
- 「待機」：
電源を入れると本機は待機中となります。

制御入出力の設定をする

制御入出力端子に関する基本的な設定を行います。

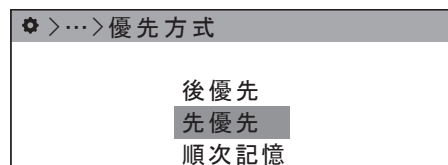
起動優先モードを設定する

制御入力の優先方式と検出方式を設定します。

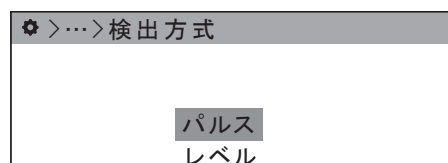
メモ：

- 優先方式と検出方式は、「制御入力」でも設定を変更できます。
- 優先方式と検出方式による動作については『PADA700 取扱説明書 操作・設定編』の「制御入力の優先順位について」をご覧ください。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「制御入出力設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「起動優先モード」を選択し、【決定】を押す
5. 「優先方式」を選択し、【決定】を押す
6. 優先方式を「先優先」/「後優先」/「順次記憶」から選択し、【決定】を押す（初期値：後優先）



7. 「検出方式」を選択し、【決定】を押す
8. 検出方式を「パルス」または「レベル」から選択し、【決定】を押す（初期値：パルス）



※「優先方式」で「順次記憶」を選択している場合は、「検出方式」は「パルス」固定になります。

- 今までと異なる検出方式に設定した場合は、確認画面が表示されます。「OK」を選択して【決定】を押し、次に進みます。

ご注意：

- 検出方式を変更した場合、機能の一部が無効になることがあります。詳しくは『取扱説明書（操作・設定編）』の「制御入力端子の機能を設定する」をご覧ください。

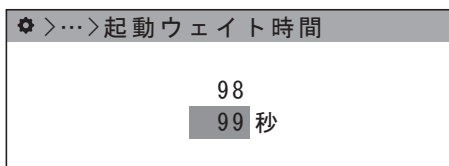
アンプなど外部機器の電源の設定をする

制御出力とアンプ電源に接続した機器の電源に関する設定をします。

■ 起動ウェイト時間を設定する

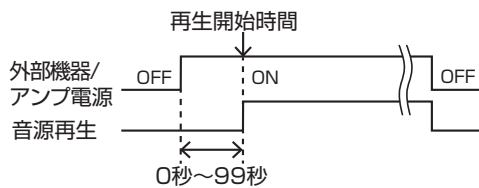
アンプや外部機器が起動するまでの時間による音切れを防ぐため、再生開始の何秒前に動作させるかを設定します。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「制御入出力設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「制御出力／アンプ電源」を選択し、【決定】を押す
5. 「起動ウェイト時間」を選択し、【決定】を押す
6. 0秒～99秒の範囲で選択し、【決定】を押す
(初期値：5秒)



メモ：

- 日課パターンによる再生の場合は、再生時刻から「起動ウェイト時間」前にアンプや外部機器を起動し、再生時刻から音源再生を開始します。



- 機能ボタンや制御入力信号による音源再生の場合は、機能実行の時点でアンプや外部機器を起動し、「起動ウェイト時間」後に音源再生を開始します。

■ 終了連動時間を設定する

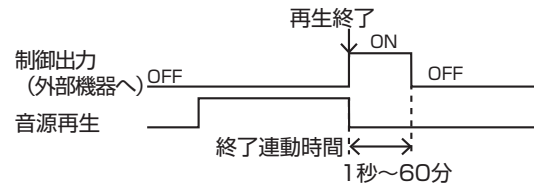
機能ボタンや制御入力の音源再生で終了連動に設定した制御出力端子の、制御出力のオンを継続する時間を設定します。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「制御入出力設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「制御出力／アンプ電源」を選択し、【決定】を押す
5. 「終了連動時間」を選択し、【決定】を押す
6. 0秒～60分の範囲で選択し、【決定】を押す
(初期値：0分0秒)



メモ：

- 終了連動時間を0分0秒に設定した場合は終了連動は動作しません。
- 設定した回数(1回～99回)の音源の再生終了から「終了連動時間」の間、制御出力をオンにして外部機器を制御します。
- 音源再生停止を割り当てた他の制御入力端子がオンしたり、他の動作によって音源再生が停止した場合は本機能は動作しません。



■ ブランク／インターバル期間の電源制御を設定する

繰り返し再生やプレイリスト再生を行なっている場合に、各再生間のブランクやインターバル期間にもアンプ／外部機器の出力を継続するか設定します。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「制御入出力設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「制御出力／アンプ電源」を選択し、【決定】を押す
5. 「ブランク／インターバル」を選択し、【決定】を押す
6. 「ON」または「OFF」から選択し、【決定】を押す
(初期値：OFF)



- 「OFF」：インターバルの間、アンプ／外部機器の出力はオフになります。
- 「ON」：インターバルの間もアンプ／外部機器の出力はオンのままです。

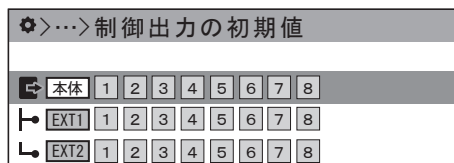
メモ：

- 「ブランク／インターバル出力」は、再生の設定でインターバルが100秒以上に設定されている場合に限り有効になります。
- 「起動ウェイト時間」を設定している場合、設定した秒数分早く出力を開始します。

■ 制御出力の初期値を設定する

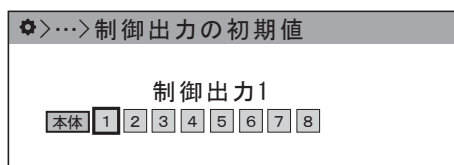
日課パターンのステップ作成・編集と、機能ボタンの音源再生開始の設定項目にある「制御出力」の初期値を設定します。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「制御入出力設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「制御出力／アンプ電源」を選択し、【決定】を押す
5. 「制御出力の初期値」を選択し、【決定】を押す



6. 「本体」「EXT1」「EXT2」からユニットを選択し、【決定】を押す

制御出力端子が選択できるようになります。



7. 設定したい制御出力端子の番号を選ぶ

- 出力先を選択して「決定」を押すごとに、有効／無効が切り換わります。
- 【戻る】を押すとユニット選択画面に戻ります。

予めこの設定をしておくことで、日課パターンのステップ作成などで都度出力先を設定する手間を省くことができます。

制御入出力を拡張する

拡張ユニットの設定をすると、本体 1 台に対して同一ネットワーク上の PA-DA700 を最大 2 台まで拡張ユニットとして使用し、制御入出力の数を増やすことができます。

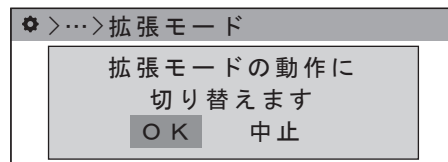
接続方法については、『本製品を複数台使用する場合』をご覧ください。(P.18)

接続後、『ネットワークの設定をする』で IP アドレスを設定しておきます。(P.23)

本機を拡張ユニットとして使用する

本機を拡張ユニットとして使用する場合は、本機を拡張モードに設定します。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「拡張モード」を選択し、【決定】を押す
拡張モードに切り替える確認画面が表示されます。



4. 「OK」を選択し、【決定】を押す
本機が拡張モードに切り替わります。

メモ：

- 拡張モードでは、【運用開始 / 停止】による運用 / 待機の切り換え以外できなくなります。
- 拡張モードの動作中に【メニュー】を押すと確認画面が表示され、拡張モードを停止することができます。

本機に拡張ユニットを接続する

拡張ユニットを接続する場合は、拡張モードに設定した PA-DA700 を、本機側で拡張ユニットとして設定します。

本体 1 台につき、「拡張ユニット 1」と「拡張ユニット 2」の 2 台まで設定できます。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「制御入出力設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「制御入出力拡張」を選択し、【決定】を押す
5. 「拡張ユニット 1」または「拡張ユニット 2」を選択し、【決定】を押す
6. 「拡張機能の有効化」を選択し、【決定】を押す

初期設定

7. 「ON」を選択し、【決定】を押す（初期値：OFF）



拡張ユニットが使用できるようになります。

8. 「IPアドレス」を選択し、【決定】を押す

9. 接続する拡張ユニットのIPアドレスを設定する



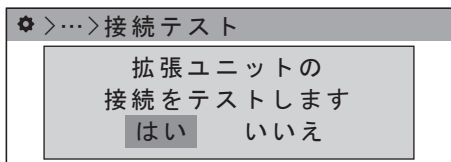
- 【決定】を押すごとにカーソルが右に移動します。
- 一番右の欄で【決定】を押すとIPアドレスが設定され、前の画面に戻ります。

■ 接続テストをする

設定した拡張ユニットとの接続を確認できます。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「制御入出力設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「制御入出力拡張」を選択し、【決定】を押す
5. 「拡張ユニット1」または「拡張ユニット2」を選択し、【決定】を押す
6. 「接続テスト」を選択し、【決定】を押す

接続テストの確認画面が表示されます。



7. 「はい」を選択して【決定】を押す

接続テストが行われ、結果が表示されます。【決定】を押すと、前の画面に戻ります。

音声入出力の設定をする

音源再生機器などの外部音声入力に接続した機器の設定や、音声出力の基本的な設定を行います。

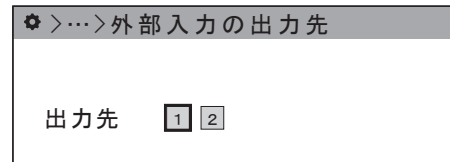
音声入力の設定をする

外部入力端子に接続したCDプレーヤーなどの外部音声機器からの音声入力に関する設定を行います。

■ 出力先を設定する

外部入力の音声をどの音声出力で出力するかを設定します。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「音声入出力設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「外部入力の出力先」を選択し、【決定】を押す
5. 「1」および「2」から出力先を選択する

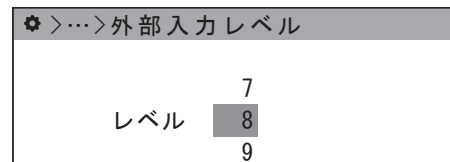


- 出力先を選択して【決定】を押すごとに、有効/無効が切り換わります。
- 【戻る】を押すと「音声入出力設定」画面に戻ります。

■ 入力レベルを設定する

外部入力端子からの音声の入力レベルを設定します。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「音声入出力設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「外部入力レベル」を選択し、【決定】を押す
5. 入力レベルを0～10から選択し、【決定】を押す（初期値：3）



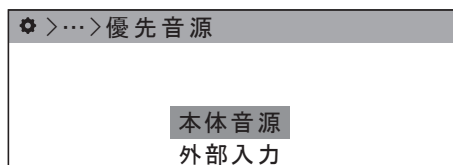
音声出力の設定をする

音声出力に関する基本的な設定をします。

■ 優先音源を設定する

本機の音源再生と外部入力重なったときに、どちらの音源を優先して出力するかを設定します。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「音声入出力設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「優先音源」を選択し、【決定】を押す
5. 「本体音源」または「外部入力」から選択し、【決定】を押す（初期値：本体音源）

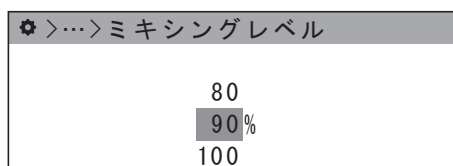


■ ミキシングレベルを設定する

音声の再生が重なった場合、優先音源でない側の音量をミキシングレベルに合わせて小さくします。

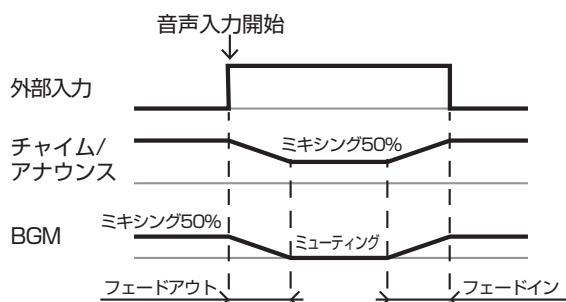
- チャイム / アナウンスと BGM が重なった場合、チャイム / アナウンスが優先されて BGM が小さくなります。
- 本機の音声再生と外部入力重なった場合は、「優先音源」で設定した音源が優先され、もう一方の音量が小さくなります。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「音声入出力設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「ミキシングレベル」を選択し、【決定】を押す
5. 0 ~ 100% から選択し、【決定】を押す（初期値：40%）



メモ：

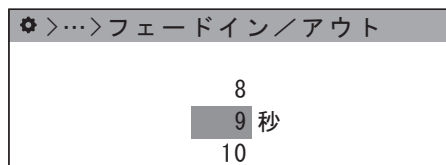
- 「優先音源」を「外部入力」、「ミキシングレベル」を「50%」に設定している場合に外部入力から音声が入力されたときの動作は以下のようになります。



■ フェードイン / アウトの設定をする

ミキシングレベルの設定によって音量が減少 / 解除される場合、フェードイン / アウトの時間を設定します。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「音声入出力設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「フェードイン / アウト」を選択し、【決定】を押す
5. 0 ~ 10 秒から選択し、【決定】を押す（初期値：0 秒）

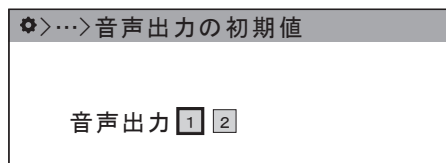


音声重なった場合、「フェードイン / アウト」で設定した秒数をかけてミキシングレベルまで音量が減少し、重なりが解除された後に設定した秒数をかけて元の音量に戻ります。

■ 音声出力の初期値を設定する

日課パターンのステップ作成・編集と、機能ボタンの音源再生開始の設定項目にある「音声出力」の初期値を設定します。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「音声入出力設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「音声出力の初期値」を選択し、【決定】を押す
5. 「1」および「2」から出力先を選択する



予めこの設定をしておくことで、日課パターンのステップ作成などで都度出力先を設定する手間を省くことができます。

バックアップについて

本機のデータは、SD カードスロットに挿入した SD カードに自動でバックアップすることができます。

自動バックアップの設定をする

あらかじめバックアップを保存する SD カードを用意し、本機に挿入しておきます。

1. 【メニュー】を押す
2. 「システム設定」を選択し、【決定】を押す
3. 「基本設定」を選択し、【決定】を押す
4. 「自動バックアップ」を選択し、【決定】を押す
5. 「ON」または「OFF」から設定を選択し、【決定】を押す
(初期値：OFF)



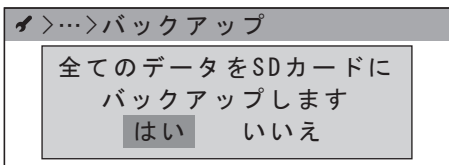
「ON」に設定すると、本機の設定を保存する際に SD カードにもバックアップを保存するようになります。

手動でバックアップをする

自動バックアップ以外にも、手動でデータのバックアップを作成できます。

あらかじめバックアップを保存する SD カードを用意し、本機に挿入しておきます。

1. 【メニュー】を押す
2. 「メンテナンス」を選択し、【決定】を押す
3. 「バックアップ／復元」を選択し、【決定】を押す
4. 「バックアップ」を選択し、【決定】を押す
確認画面が表示されます



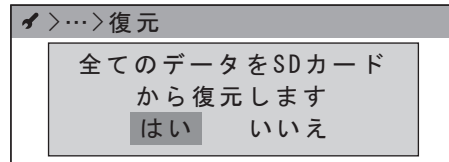
5. 「はい」を選択し、【決定】を押す
バックアップが SD カードに保存されます。

バックアップから復元する

保存されたバックアップから、データを復元できます。

あらかじめバックアップを保存した SD カードを本機に挿入しておきます。

1. 【メニュー】を押す
2. 「メンテナンス」を選択し、【決定】を押す
3. 「バックアップ／復元」を選択し、【決定】を押す
4. 「復元」を選択し、【決定】を押す
確認画面が表示されます



5. 「はい」を選択し、【決定】を押す
SD カードのバックアップからデータが復元されます。

内蔵電池のバックアップについて

本機には停電補償の一次電池が内蔵されています。約 30 日の停電補償となっています。

電池は消耗品で機器内部の電池ホルダーに付けられているため、サービスによる交換修理対応になります。

交換の目安は約 5 年です。

この電池で本体の時計をバックアップしています。

消耗部品について

下表は消耗部品の一覧です。これらの部品交換にともなう部品代、および技術料、出張料を含む修理費用は保証期間内でも有償となります。部品交換の計画、費用などのご相談はご購入上げ販売店、または弊社サービス窓口にご相談ください。

部品名	備考
バッテリー (品番：QAB0049-001)	約 5 年のご使用を目安に交換してください。 機器内部に取り付けられているため、交換は弊社サービスによる交換修理対応になります。
AC アダプター (品番：WOH-0171-00 もしくは WOH-0176-00)	約 5 年のご使用を目安に交換してください。

※ 交換時期は 25℃環境で使用したときのめやすであり、使用環境により異なります。

仕様

(0 dBs=0.775 Vrms)

■ 基本仕様

電源	: DC24 V、 付属 AC アダプター (AC100V 50Hz/60Hz) または 5.08 mm ピッチ 3P コネクター端子台
消費電流	: 350 mA
使用温度範囲	: 0 °C ~ 40 °C
質量	: 約 2.6 kg
寸法	: 420 mm × 44 mm × 280 mm (突起部含まず) (幅×高さ×奥行き)
仕上げ	: フロントパネル: 黒色 ABS 樹脂 トップカバー: 黒色半艶焼付塗装 (マンセル N1 近似)
関連商品	: ラックマウント金具 PS-RU11 (EIA 1U)

■ 制御部

親時計入力	: 30 秒式親時計 ± 24 V、 3.5 mm ピッチ 3P コネクター端子台
通信ポート	: LAN 端子 (RJ45)、 100Base-TX/1000Base-T
制御入力 (× 16) *	: 無電圧メーク接点およびオープンコレクター 出力に適合、 3.5 mm ピッチ 10P コネクター端子台 × 2 ※ PA-DA700 を 2 台追加することにより、 最大 48 端子まで拡張
制御出力 (× 8) *	: リレー接点 (DC 30 V、1 A) ねじ式端子 ※ PA-DA700 を 2 台追加することにより、 最大 24 端子まで拡張
アンプ電源	: リレー接点 (DC 30 V、1 A)
制御出力	: ねじ式端子

■ 音声入力部

外部入力 端子	: 3.5 mm ピッチ 3P コネクター端子台
入力レベル / インピーダンス	: -20 dBs/10 kΩ 以上、不平衡
録音入力 端子	: φ 3.5 ステレオミニジャック モノラル LR ミックス
入力レベル / インピーダンス	: -10 dBs/10 kΩ 以上、不平衡

■ 音声出力部

音声出力 端子 (× 2)	: 3.5 mm ピッチ 3P コネクター端子台
出力レベル / インピーダンス	: 基準 -10 dBs (最大出力 +8.2 dBs) / 300 Ω、不平衡
ヘッドホン出力 端子	: φ 3.5 ステレオミニジャック
出力レベル	: ステレオ、32 Ω 時: 最大 3mW+3mW (適合負荷 16 Ω ~ 32 Ω)

■ 外部記録部

SD カードスロット	対応 SD カード: 別売、SD、SDHC (最大 32GB) 追加音源の保存、設定 / スケジュールデータ の更新およびバックアップ
USB 端子	: 別売、USB2.0 Type-A、レセプタクル (USB メモリーを接続) 音源及び設定データの読み書き

■ タイマー部

時計精度	: 月差 ± 5 秒 (+25 °C)
停電補償	: 時計: 30 日以上 (0 °C ~ +40 °C)
時刻表示	: 西暦年、月、日、曜日、時、分、秒
ステップ数	: 999 ステップ (1 パターンあたり)
パターン数	: 99 パターン (1 パターンあたり最大 999 ステップ)
スケジュール	: 週間 / 年間 (2 年間) スケジュール設定可能
時刻補正	: NTP、親時計入力、接点入力

■ チャイム / アナウンス / BGM 部

フォーマット	: 48 kHz 16 bit WAV ステレオ / モノラル
チャイムファイ ル登録数	: 工場出荷時搭載音源数: 73 (内蔵メモリ)、 最大 999 (SD カード使用時)
BGM ファイル 登録数	: 最大 999 (SD カード使用時)
プレイリスト 登録数	: チャイム / アナウンス: 最大 999 BGM: 最大 999

■ 録音部

フォーマット	: 48 kHz 16 bit WAV モノラル
録音ファイル登録数	: 最大 999

■ 音源ファイル

本体内蔵メモリ	: 最大約 90 分追加可能 (空き容量約 500 MB)
SD カード	: 別売、SD/SDHC に対応 最大約 80 時間 (32 GB 使用時) 最大 3 時間 / 1 ファイル

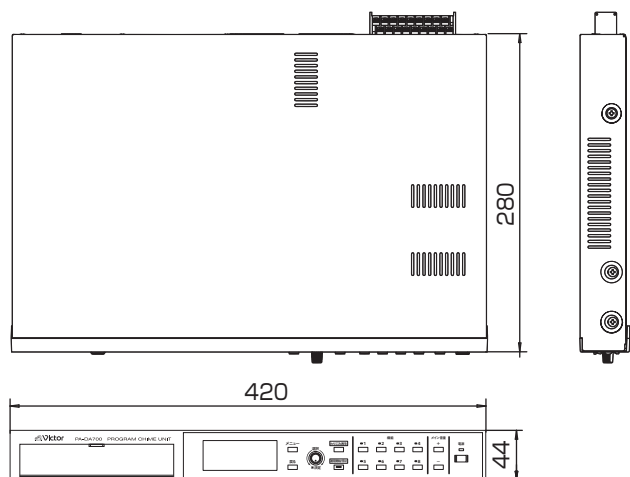
■ 操作部

表示	: ディスプレイ: 2.55 インチ、カラー液晶 電源表示: 緑色 LED × 1 機能ボタン表示: 緑色 LED × 8
操作スイッチ	: 【メニュー】 ボタン、 【選択】 ダイヤル / 【決定】 ボタン 【戻る】 ボタン 【運用開始 / 停止】 ボタン 【機能】 1 ~ 8 ボタン、 【わりこみ再生】 ボタン 【メイン音量】 ボタン + / - 【電源】 ボタン ヘッドホンボリュームつまみ

■ 付属品・添付物

- 保証書× 1
- 取扱説明書（本書）× 1
- 取扱説明書（操作・設定編）× 1
- 3P コネクター端子台 (3.5 mm ピッチ) × 4
- 3P コネクター端子台 (5.08 mm ピッチ) × 1
- 10P コネクター端子台 (3.5 mm ピッチ) × 2
- フット× 4
- AC アダプター× 1
- 電源コード× 1
- ワイヤークランプ× 1

■ 外形寸法図（単位：mm）



※ 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

本機は『高調波電流規格 JIS C61000-3-2 適合品』です。

JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター

固定電話  0120-2727-87

携帯電話  0570-010-114

一部のIP電話など 045-450-8950

FAX 045-450-2308

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

株式会社 JVCケンウッド・公共産業システム

ホームページ <https://jkpi.jvckenwood.com/>